

YAESU

MOBILE TRANSCEIVER

FT-715/M/H

取扱説明書



この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には、使用できません。

このたびは**YAESU FT-715/M/H**モバイル・トランシーバーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。

本製品は厳しい品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などにともなう、破損またはご不審な箇所がございましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにお申し付けください。

また、万一故障したときには、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスまで修理をご依頼ください。当社の営業所/サービスの所在地・電話番号は、この取扱説明書のうら表紙に記載してあります。

なお、修理をご依頼になる場合には、故障の発生状況・症状等を具体的にお知らせください。

- 保証書は、大切に保管してください

この商品には、保証書が添付されています。お買い上げいただいた販売店名、お買い上げ年月日が保証書に記入されていることをご確認のうえ、大切に保存してください。

- 保証期間はお買い上げ日から一年間です

お買い上げいただいた日から一年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状況で故障した場合には、無料で修理をお引受けいたします。

- 保証期間経過後の修理

保証期間が経過したあとに故障が生じた場合は、

お買求めの販売店またはお近くの当社サービスにご相談ください。

修理により機能が維持できる場合は、その故障を有償で修理させていただきます。

- 保証書がない場合の修理

保証書がない商品については保証期間が経過したものととして、有償修理になりますのでご了承ください。

- 修理の依頼方法

お買求めの販売店、または当社サービスにご相談ください。

このとき不具合の発生状況、症状を具体的にお知らせください。

なお輸送中の事故を防止するため、付属の梱包箱により梱包のうえ運搬または運送するようにしてください。

- 無線機本体に貼り付けてある技術基準適合証明シールは、汚したり剥がしたりしないようにご注意ください。

ご使用の前に	2	スキャン機能	28	ビープ機能	57
安全上のご注意	2	スキャンストップモードの設定操作	28	ロック機能	58
取扱い上のご注意	2	5秒スキャン	28	タイム・アウト・タイマー機能の設定操作	59
付属品	3	ポーズスキャン	28	でんごんメモリー運用	60
オプション	3	メモリーチャンネルスキャンスキップ	30	録音・再生の方法	60
パネル面の説明	4	プログラマブルメモリスキャン	30	録音の方法	60
各キーの説明	5	プライオリティ機能	32	フリーズモード設定	60
背面の説明	6	ダイアルモード周波数での		ビットレートの設定	60
付属マイクロホンの説明	7	プライオリティ操作	32	再生の方法	62
アンテナについて	8	メモリーモードでのプライオリティ操作	33	リモート機能	63
電源について	9	プライオリティ操作の解除	33	リモート運用時のコマンド表	64
設置場所について	10	レピーター運用	34	暗証番号の設定	66
固定局として運用するとき	10	送信オフセット運用	36	録音・再生ロックの設定	66
モバイルブラケットの取付方法	11	マイナスシフト	36	録音・再生ロック	66
アンテナの接続	12	プラスシフト	36	録音ロック	66
外部スピーカーの接続	12	シフト幅の変更操作	38	ロック解除	66
電源の接続	12	ARS機能のON/OFF	38	バックアップ機能	67
パケット通信について	13	トーンスケルチ運用	39	リセットの方法	67
受信操作	14	トーンエンコーダー運用	39	メモリーオンリーモード	68
電源の入れ方/切り方	14	トーンスケルチ運用	39	メモリーオンリーモードへの切り換え	68
受信音の調節	14	ベル運用	40	メモリーオンリーモードでの	
運用周波数の設定	15	ベル運用の解除	40	プライオリティ操作	68
DIAL TUNING	16	トーン周波数の変更操作	41	メモリーオンリーモードの解除	68
UP/DWN TUNING	16	ページャー運用	42	CATコントロール	70
ステップ幅の設定操作	17	ページャーコードの設定	42	通信データの構成	70
運用周波数を1MHzステップで変化させる方法	17	待ち受け操作	45	CATシステムの使用例	70
ステップ幅の設定操作	18	ページャー動作	45	ボイスメモリーユニットの取付方法	72
送信操作	20	トリガーページャー動作	46	トーンスケルチユニットの取付方法	76
送信のしかた	20	コードスケルチ動作	46	ワイヤレスリモコンマイクMW-2の使い方	80
送信出力の設定方法	21	ページャー自動応答機能の設定操作	47	運用周波数の設定方法	81
メモリー操作	22	自動転送動作	47	メモリーチャンネルの呼び出し方法	81
メモリーセット	22	自動応答動作	47	故障かな?と思ったら	82
シンプレックス・メモリー操作	22	呼び出し操作	48	430MHzの周波数の使用区分について	83
セミデュプレックス・メモリー操作	23	ページャー呼び出し	48	アマチュア無線局免許申請書の書き方	84
メモリーチャンネルの呼び出し操作	24	コードスケルチ呼び出し	48	FT-715で申請する場合	84
メモリーモード時の付属機能	24	ページャーコード送信ディレータイムの設定	49	FT-715Mで申請する場合	85
メモリーチューン機能	24	着呼禁止機能	50	FT-715Hで申請する場合	86
メモリーチャンネルクリア操作	25	マニュアルによる呼び出し方法	51	索引	88
コールチャンネル操作	26	呼び出し音の変更操作	52	定格	92
コールチャンネルの呼び出し操作	26	呼び出し音の種類の変更操作	52		
コールチャンネルセット	26	呼び出し音の鳴る回数の変更操作	53		
シンプレックス・セット	26	呼び出し音の動作変更操作	54		
セミデュプレックス・セット	26	DTMFモード	55		
		DTMFメモリーセット	55		
		DTMFメモリーの送出方法	57		

■ 安全上のご注意

- 本機の動作電圧範囲は
直流12.0V～16.0Vです。9ページの“電源について”を良くお読みになり、付属の電源コードを使用して、直接無線機用直流電源に接続してください。
また、動作電圧範囲以上の電圧や逆電圧を加えることは危険ですから、過電圧や逆接続にならないよう、十分ご注意ください。
- 異常？と感じたときは
煙が出ている、変な臭いがする・・・などの故障状態のまま使用すると危険です。
すぐにPOWERスイッチを切るとともに本機を電源から外し、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社サービスへ修理をご依頼ください。
- 本機の内部に触れることは
故障の原因になります。オプションの取り付け時以外は、お手を触れないでください。
なお、内部の点検・調整は、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにご依頼ください。
- 水がこぼれたときには
本機のそばに花瓶、化粧品、薬品、飲料水などの、水の入った容器を置かないでください。
万一、内部に水が入った場合は、**すぐにPOWERスイッチを切る**とともに本機を電源から外し、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにご相談ください。

■ 取り扱い上のご注意

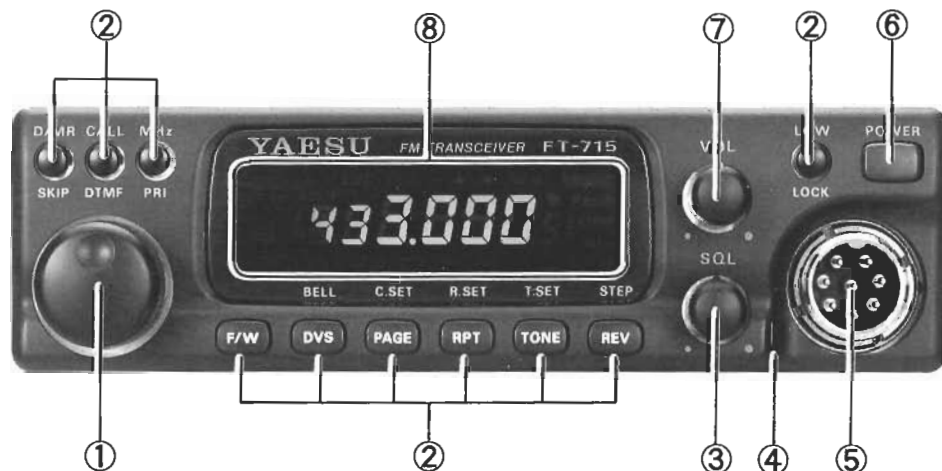
- 変形、変色、結露、破損などの事故を未然に防止するため、次のような場所でのご使用および保管はできるだけ避けてください。
 - 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所。
 - 寒い部屋から急に暖かい部屋への移動。
 - 暖房器具の近く。
 - 浴室などの湿気の多い場所。
 - 車のダッシュボードなどの直射日光の当たる場所。
 - 不安定な場所。
- TV・FM放送用送信アンテナの近くでは
放送電波の混入妨害が起こる場合がありますのでご注意ください。
- 無線中継所の近くでは
業務用無線通信に妨害を与える場合がありますのでご注意ください。
- 外部アンテナは
テレビアンテナや電灯線からなるべく離して設置してください。
- ケースが汚れたら
中性洗剤を湿した布などで軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ります。
シンナーやベンジンはケースを傷めますので、絶対に使用しないでください。
- オプションの取り付け時には、必ず指定のビスを使用してください。指定以外のビスを使用すると、ショートなどによる故障の原因になります。

付属品

- マイクロホン1
 MH-26A8 (A0323)
- モービルブラケット1
 MMB-36 (D6000055)
- 電源コード1
 FT-715 用 (T9018510A)
 FT-715M 用 (T9018615A)
 FT-715H 用 (T9018615A)
- 取扱説明書1
- 保証書1
- 予備ヒューズ2
 FT-715 用 10A (Q0000007)
 FT-715M 用 15A (Q0000008)
 FT-715H 用 15A (Q0000008)

オプション

- ワンタッチ型モービルブラケット MMB-37 (D6000056)
- トーンスケルチユニット FTS-27 (A0597)
- ワイヤレスリモコンマイク MW-2 (A0485)
- スピーカーマイクロホン MH-26 B8 (A0324)
- DTMF機能付マイク MH-26 c8 (A0325)
- ボイスメモリーユニット DVS-3 (A0295)
- 外部スピーカー SP-7 (A0359)



① ダイヤルツマミ

運用周波数の設定やメモリーチャンネルの選択などを行うツマミです。

② キースイッチ

メモリー操作や各種の機能の設定を行うスイッチです。

③ SQLツマミ

受信信号の入感がないときに出るFM特有のノイズを消すためのツマミです。

④ オートディマーセンサー

周囲の明るさにより照明ランプの明るさを自動的に切り換える、オートディマー回路のセンサーです。

⑤ MICジャック

マイクロホン“MH-26A8”を接続する、8ピンのマイクジャックです。

⑥ POWERスイッチ

本機の電源を“ON/OFF”するスイッチです。

⑦ VOLツマミ

受信時の音量を調整するツマミです。

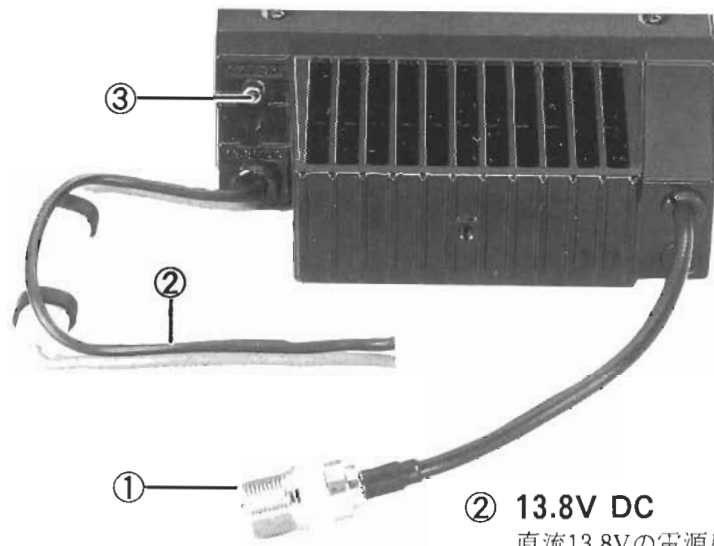
⑧ ディスプレイ

運用周波数や各種の動作状態を表示する液晶表示器です。

単独で押した場合

F/Wキーを押した後に続けて押した場合

D/MR ● SKIP	➡	ダイヤルモードとメモリーモードの切り換えを行います。 (24ページ参照)	➡	メモリーチャンネルをスキップします。 (メモリーモード時) (30ページ参照)
CALL ● DTMF	➡	コールチャンネルの呼び出しを行います。 (26ページ参照)	➡	DTMFの書き込みモードになります。 (55ページ参照)
MHz ● PRI	➡	1MHzステップモードに切り換わります。 (17ページ参照)	➡	プライオリティ機能が動作します。 (32ページ参照)
F/W	➡	ファンクション機能が動作します。 0.5秒以上押すと書き込みモードになります。	➡	ファンクション機能を解除します。
BELL DVS	➡	ボイスモードのON/OFFを行います。 (60ページ参照)	➡	ベル機能をON/OFFすることができます。 (40ページ参照)
C.SET PAGE	➡	ページャー機能が動作します。 (42ページ参照)	➡	ページャーコードセットモードになります。 (44ページ参照)
R.SET RPT	➡	送信オフセットのー＋セットを行います。 (36ページ参照)	➡	オフセット周波数を変更するモードになります。 (38ページ参照)
T.SET TONE	➡	トーンエンコーダーのON/OFFを行います。 (39ページ参照)	➡	トーン周波数を変更するモードになります。 (41ページ参照)
STEP REV	➡	リバースのON/OFFを行います。 (36ページ参照)	➡	ステップセットモードになり、周波数 ステップを変更できます。(18ページ参照)
LOW ● LOCK	➡	送信出力の設定を行います。 (21ページ参照)	➡	ロック機能のON/OFFを行います。 (58ページ参照)



① ANT端子

430MHz帯用のアンテナを接続するためのM型同軸コネクター付アンテナケーブルで、インピーダンスは50Ωに整合がとられています。

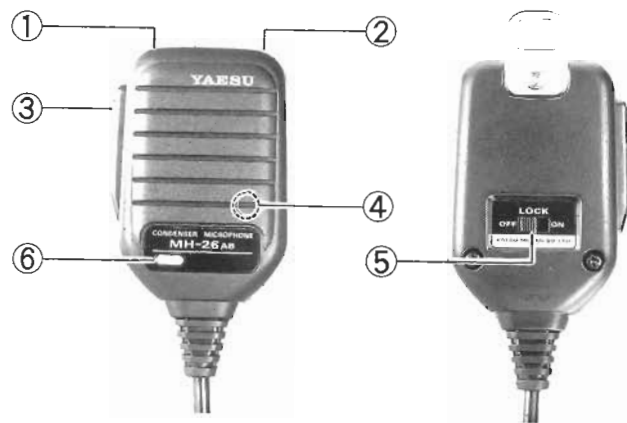
② 13.8V DC

直流13.8Vの電源に接続する電源ケーブルです。
付属の電源コードを使って直流電源に接続します。
極性は赤色がプラス (+), 黒色がマイナス (-) です。

③ 外部スピーカー端子 (EXT SP)

外部スピーカー (4Ω~16Ω) を接続するための端子です。

この端子に外部スピーカーを接続すると、内蔵スピーカーの動作が止まり、外部スピーカーから受信音出力されるようになります。



① DWNキー

運用周波数（ダイヤルモード時）またはメモリーチャンネル（メモリーモード時）を1ステップずつDOWNさせるキーです。このキーをワンタッチで押すと運用周波数またはメモリーチャンネルが1ステップ低くなり、0.5秒以上押し続けるとスキャン（28ページ参照）を開始します。

② UPキー

運用周波数（ダイヤルモード時）またはメモリーチャンネル（メモリーモード時）を1ステップずつUPさせるキーです。このキーをワンタッチで押すと運用周波数またはメモリーチャンネルが1ステップ高くなり、0.5秒以上押し続けるとスキャン（28ページ参照）を開始します。

③ PTTスイッチ

送受信状態を切り換えるスイッチです。このスイッチを押すと送信状態になり、離すと受信状態に戻ります。

④ マイク

マイクロホンの位置です。ここに向かって送話します。

⑤ LOCKスイッチ

マイクロホンのUP/DWNキーとD/MR (SKIP)キーの動作をロックするスイッチです。このスイッチを“ON”の方向にスライドさせると、マイクロホンのUP/DWNキーとD/MR (SKIP)キーがロックされ、誤って触れても運用周波数などは変わりません。

⑥ D/MR (SKIP) キー

ダイヤルモードとメモリーモードを切り換えるスイッチです。

メモリーモードの際、本体にあるF/Wスイッチを押したあとに、このスイッチを押すと、指定したメモリーチャンネルだけを順にスキャンするメモリーチャンネルスキップ機能のセット/リセット設定ができます（30ページ参照）。

アンテナについて

本機のアンテナインピーダンスは、 50Ω 系の負荷に整合するように設計してあります。

したがって、アンテナ端子に接続する点のインピーダンスが 50Ω であれば、どのような型式のアンテナでも使うことができます。

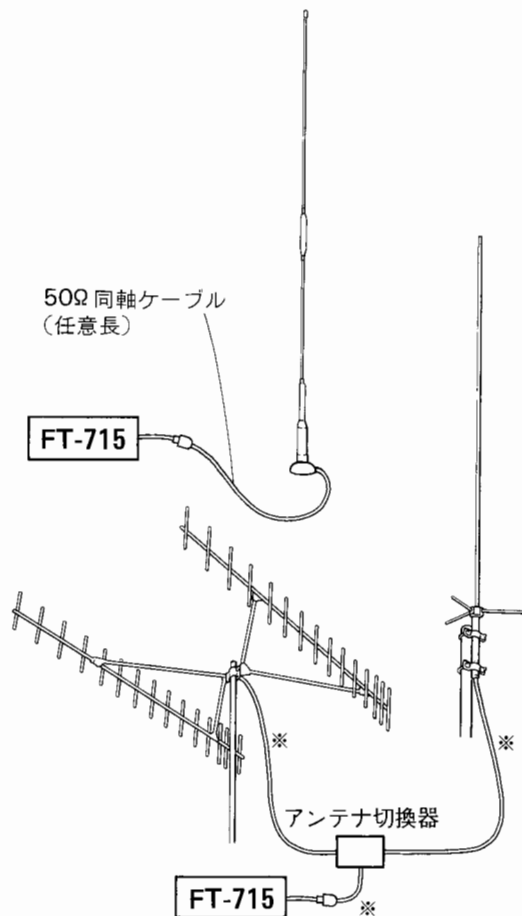
モービル運用の場合には、 $5/8\lambda$ のホイップ型などの軽量のものが良いでしょう。

固定局としてご使用になる場合には、八木アンテナ・キュービカルクワッド・グランドプレーンなど、多くの種類のアンテナがありますから、建設場所や周囲の状況に合わせてお選びください。

いずれの場合でも、アンテナによって受信感度や送信電波の飛び具合などに大きく影響しますから、アンテナの調整は念入りに行うとともに、アンテナと同軸ケーブル・同軸ケーブルと本機の間をの整合を確実にとり、SWRが低い状態で使用するようにしてください。

SWRが高い状態で使用すると、送信出力部に負担がかかり、故障の原因になります。

また、UHFバンドのように波長が短くなると、本機とアンテナを結ぶ同軸ケーブルでの損失が無視できなくなりますので、本機とアンテナの間は 50Ω 系の良質な同軸ケーブルを使用して、最短距離で接続してください。



電源について

本機を車載で使用するときには、下記に示す注意事項に従い、付属の電源コードを使用して、バッテリーの**プラス（＋）側端子に電源コードの赤線、マイナス（－）側端子に電源コードの黒線**を直接接続してください。

なお、電源コードの配線は、エンジンの熱や水滴などの影響を受けない場所を選び、最短距離でバッテリーと接続するようにしてください。

やむを得ず、電源コードの延長が必要な場合には、付属の電源コードと同等以上の容量を持つコードを使用し、接続点は確実にハンダ付けして電圧降下や接続不良・発熱等の原因にならないようにしてください。

また、ヒューズが切れた場合には、**ヒューズが切れた原因を確認した上で**、規定電流値のヒューズと交換してください。

- 電源コードは必ず、バッテリーの端子に直接接続してください。

アクセサリ端子やシガーライタープラグなどでは、電流不足などにより本機の性能を十分に発揮できないことがあります。

- 電源コードの配線は、エンジンの熱や水滴などの影響を受けない場所を選ぶとともに、運転の支障にならないようにしてください。
- 車のボディにバッテリーのマイナス（－）電極が接続してある、マイナス接地の車でご使用ください。

- 12V型バッテリーを使用している車でご使用ください。

バス・トラックなどの大型車で24V型バッテリーを使用している車では使えませんので、このような車で使用する際には、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにご相談ください。

- 走行中など、エンジンの回転が上がったような場合でも、バッテリー電圧が15Vを越えないようにレギュレーターが調節されていることを確認してください。
- エンジンを止めた状態で送信を長く続けるとバッテリーが過放電になり、次にエンジン始動するときに支障を生じることがありますので十分ご注意ください。

また、長時間使用しないときや電装関係の整備をする場合には、電源コードを本体背面の電源ケーブルから外しておいてください。

- 正しい極性での接続と規定電流値のヒューズ（下表参照）を使用することを必ず守ってください。

FT-715H → 13.8V 15A

FT-715M → 13.8V 15A

FT-715 → 13.8V 10A

設置場所について

本機を末長くご愛用していただくため、また本機の性能をフルに発揮させるためにも下記に示すような場所での使用および保管はできるだけ避けてください。

- 直射日光や暖房装置の熱・熱風が直接当たる場所。
- 風通しの悪い場所。
- 湿気の多い場所。

なお、本機をハイパワーで長時間連続送信すると、本体が高温になりますので、本機の周辺に“熱により変形する恐れのある物”を置かないようにしてください。

アドバイス

オプションのワイヤレスリモコンマイク“MW-2”を利用すると、本機を遠隔操作したりすることができ、限られたモバイル空間をフルに活用した“新しいスタイルのモバイル運用”が行えるようになります。

固定局として運用するとき

本機を固定局として使用するためには、下表に示す容量の無線機用直流安定化電源装置を用意し、付属の電源コードを使用して、無線機用直流安定化電源装置の**プラス(+)**側端子に**電源コードの赤線**、**マイナス(-)**側端子に**電源コードの黒線**を接続してください。

なお、無線機本体の取付方法やアンテナ・電源等の接続方法は車に取り付ける場合と同じですので、前項を参考に設置してください。

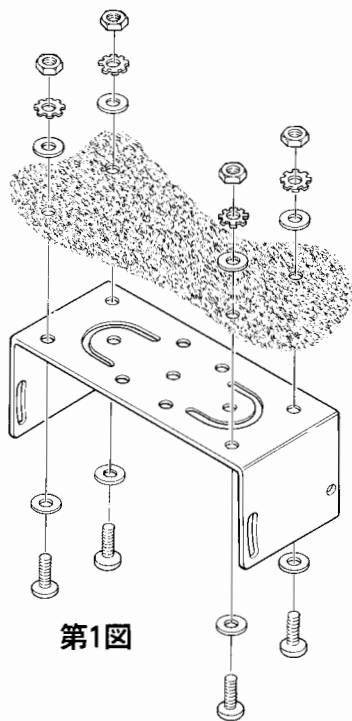
また、固定局として運用するときでも、車に取り付ける場合と同じように、オプションのワイヤレスリモコンマイク“MW-2”を利用すると、より一層快適な運用を行うことができます。

FT-715H	→	13.8V	12A
FT-715M	→	13.8V	9A
FT-715	→	13.8V	5A

モービルブラケットの取付方法

本機にはモービルブラケット“MMB-36”が付属しています。

車載で使うときの本機の取り付け、あるいは固定で使うときのアダプターとしてご利用ください。



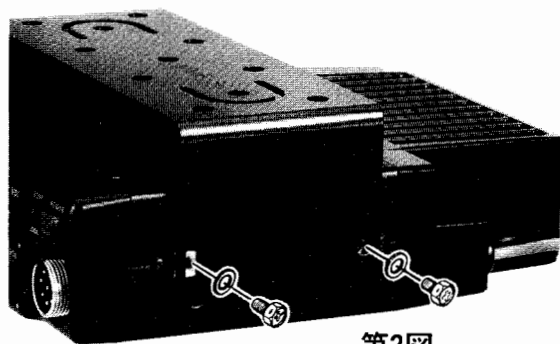
第1図

1. 付属のモービルブラケット **MMB-36** を取付場所に当て、取り付け穴（直径5mm～5.5mm程度）をあけます。このとき、付属の両面テープを利用して仮止めすると、位置の設定が楽に行えます。
2. 第1図を参考に、付属のビス・ワッシャ・ナットを使用して、振動等でゆるまないように **MMB-36** を取り付けます。
3. 第2図を参考に、付属のビスとワッシャを使用して、**MMB-36** に無線機本体を取り付けます。



付属のビス（**M4mm × 6mm**）または、同サイズのビス以外のものは故障の原因になりますので使わないようにしてください。

また、本機の取り付け場所は車両の運転に支障のないよう、安全と操作性に配慮してください。（急停止をしたときなどに、同乗者への危険防止にも十分な配慮をしてください）。



第2図

アンテナの接続

アドバイス

本機に接続するアンテナは、あらかじめ8ページの“アンテナについて”を参考に、自局の運用形態にあったアンテナを選び、良質の50Ω系同軸ケーブルを使用して接続しておきます。

1. アンテナから来ている同軸ケーブルのコネクターを、本体背面のアンテナケーブルのコネクターに接続します。
2. 運転の支障にならないよう、同軸ケーブルをきれいに配線します。
3. 以上でアンテナの接続作業は終了です。

外部スピーカーの接続

本機には、外部スピーカー端子（EXT SP）がありますので、自局の運用形態に合わせて、外部スピーカーを取り付けてください。

また、外部スピーカーを接続したときには、運転の支障にならないよう、外部スピーカーのケーブルはきれいに配線してください。



外部スピーカー端子（EXT SP）にはイヤホンは差し込まないでください。

過大入力により、耳に障害を生じる場合があります。

電源の接続

アドバイス

本機に付属している電源コードの一端は、あらかじめ9ページの“電源について”を参考に、車のバッテリーに接続しておきます。



下記の作業は、無線機本体の**POWER**スイッチを必ず“OFF”にしてから行ってください。

1. 電源コードのプラグを、本体背面の電源ケーブル（13.8V DC）のプラグに接続します。
2. 運転の支障にならないよう、電源ケーブルをきれいに配線します。
3. 以上で電源の接続作業は終了です。

パケット通信用TNCの接続方法

本機はパケット通信用TNCをマイクジャックに接続するだけで、簡単にパケット通信を楽しむことができます。

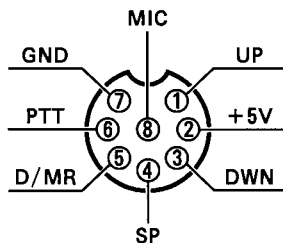
本機のマイクジャックには、音声出力がピン4に出力されていますので、ここから受信信号をTNCに供給します。

なお、出力レベルはパネル面のVOLツマミで調整することができます。

また、ピン8がマイク入力端子になっていますので、送信時のTNCからの出力はこの端子に接続します。

なお、この端子の入力インピーダンスは600Ωで、最大入力電圧は10mVです。

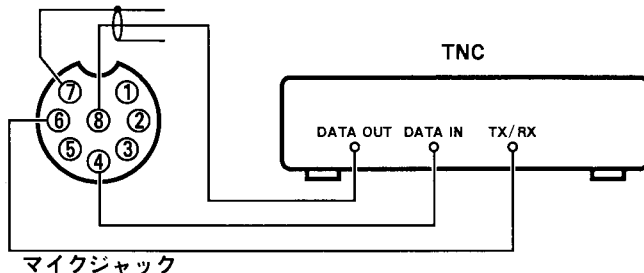
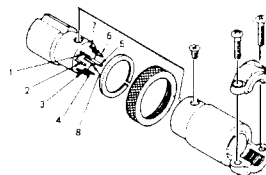
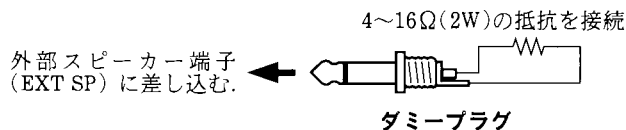
詳しい接続方法はTNCの取扱説明書をご覧ください。



マイクジャック

アドバイス

受信音が耳ざわりな場合は、受信信号を本機の背面にある外部スピーカー端子（EXT SP）からTNCに供給するか、または外部スピーカー端子にダミープラグ（下図参照）を接続することにより、受信音を消すことができます。



この項では、本機の電源の入れかたや送受信操作など、基本的な操作方法について説明します。

受信操作

● 電源の入れかた/切りかた

パネル面の **POWER** スイッチを押すと、電源が“ON”になります。



もう一度 **POWER** スイッチを押すと、電源が“OFF”になります。

電源が“ON”になると、下に示すような表示がディスプレイに現れ、430.000MHzの周波数を受信することができます。

430.000

アドバイス

工場出荷後、はじめて電源を“ON”にすると、上記に示した運用状態に設定されますが、次に電源を入れるときにはバックアップ機能により、電源を“OFF”にする前に設定してあった状態を表示するようになります。

● 受信音の調節

1. 受信音はVOLツマミで調節します。時計（右）方向にまわすほど音量が大きくなりますので、適当な音量になるよう調節します。



2. 表示した周波数に運用中の局がないときには、“ザー”というFM特有のノイズが聞こえますので、SQLツマミをまわして、このノイズが消える位置にセットします。



運用周波数の設定

運用周波数の設定操作には、下記の2種類の方法がありますので、16ページを参考にして、そのときの状況に合わせて使い分けてください。

- ◎ DIAL TUNING：ダイヤルツマミによる設定方法
- ◎ UP/DOWN TUNING：マイクロホンのUP/DWN
キーによる設定方法

アドバイス

設定した周波数は、簡単なキー操作でメモリーチャンネルまたはコールチャンネルに登録して運用することができます。

詳しくは、22ページの“メモリー操作”または26ページの“コールチャンネル操作”をご覧ください。

● DIAL TUNING

パネル面のダイヤルツマミで、運用周波数を設定する方法です。

ダイヤルツマミは、時計（右）方向にまわすと1ステップずつ運用周波数が高くなり、反時計（左）方向にまわすと1ステップずつ運用周波数が低くなります。



アドバイス

◎ 1ステップの周波数変化量（ステップ幅）は、5/10/12.5/15/20/25/50kHzの内から1つを選択することができます（工場出荷時には、20kHzに設定してあります）。

詳しくは、18ページの“ステップ幅の設定操作”をご覧ください。

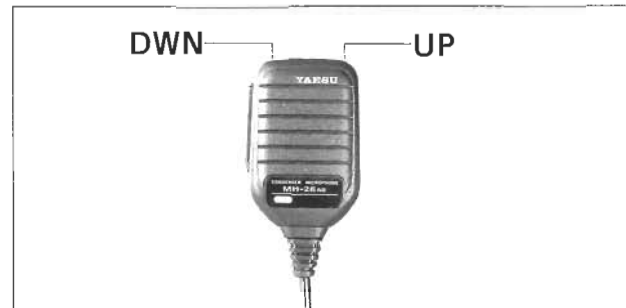
◎ 運用周波数を1MHzステップで変化させることもできます。

詳しくは、17ページの“運用周波数を1MHzステップで変化させる方法”をご覧ください。

● UP/DOWN TUNING

マイクロホンのUP/DWNキーで、運用周波数を設定する方法です。

マイクロホンのUP/DWNキーをワンタッチで押すと、1ステップずつ運用周波数がそれぞれの方向に変化します。



アドバイス

◎ 1ステップの周波数変化量は、ダイヤルツマミのステップ幅と同じです。

◎ ダイアルツマミと同様に、運用周波数を1MHzステップで変化させることもできます。

◎ マイクロホンのUP/DWNキーは押し続けると、スキャン動作を開始します。

詳しくは、28ページの“スキャン操作”をご覧ください。

● 運用周波数を1MHzステップで変化させる方法

キースイッチの【MHz】キーを押すと、1MHz桁が点滅し、ダイヤルツマミまたはマイクロホンのUP/DWNキーで運用周波数を1MHzステップで変化させることができます。

433.000



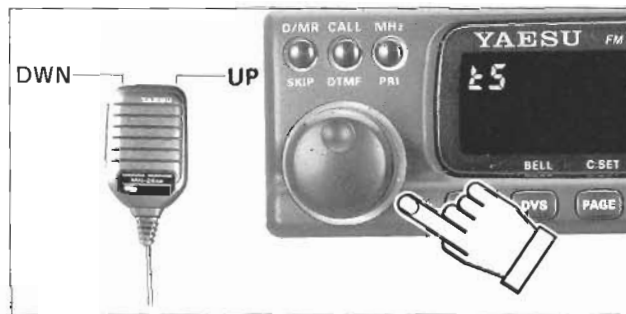
もう一度【MHz】キーを押すと、1MHz桁の点滅が点灯に戻り、ダイヤルツマミとUP/DWNキーの周波数変化量は元のステップ幅に戻ります。

● ステップ幅の設定操作

1. キースイッチの**F/W**キーと**REV**キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定してあるステップ幅が表示されます。



2. この状態でダイヤルツマミまたはマイクロホンのUP/DWNキーを操作すると、ステップ幅が右ページのように変化しますので、希望するステップ幅に合わせます。



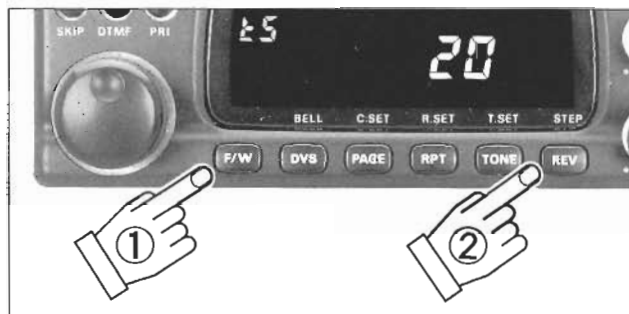
3. もう一度**REV**キーを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、ステップ幅の設定操作は終了します。





周波数のステップ幅を5kHzに設定したいとき

キースイッチの**F/W**キーと**REV**キーを続けて順に押す！



もう一度**REV**キーを押す！

周波数のステップ幅の変更操作完了！

ダイヤルツマミまたはマイクロホンのUP/DWNキーでディスプレイの数字を5に合わせる！



← 左まわし (DWNキー)

周波数のステップ幅

(UPキー) 右まわし →

5 (kHz) 10 (kHz) 12.5 (kHz) 15 (kHz) 20 (kHz) 25 (kHz) 50 (kHz)

送信操作

受信ができましたら送信操作に移ります。



◎ 送信するときには必ず、アンテナかダミーロードを接続して行い、決して無負荷で送信しないように十分ご注意ください。

◎ 送信するときには、すでに行われている他の通信に妨害を与えないよう、十分ご注意ください。

◎ アマチュアバンドの下端(430.000MHz)と上端(440.000MHz)では、オフバンドになりますので絶対に送信しないでください。

● 送信のしかた

マイクロホンのPTTスイッチを押すと、送信状態に切り換わります。



PTTスイッチを押した状態でマイクに向かって送話すれば、通話ができます。

PTTスイッチを離すと受信状態に戻ります。

アドバイス

本機を長時間連続して送信し続けると、本機に内蔵してある送信保護回路が働き、警告のピープ音を発した後、ディスプレイの **TX** 表示が点滅して強制的に受信状態に戻り、無線機内部の温度上昇による故障を未然に防ぎます。

なお、本機が強制的に受信状態に戻ったときには、PTTスイッチを再度押し直せば約10秒間だけ送信することができますので、相手局に“オーバーヒートのため送信を一時中断する”旨を伝え、本機が冷えるまで受信状態を保ってください。

また、連続送信によるトラブルを防止するため、“タイム・アウト・タイマー機能”により、あらかじめ決められた時間が経過すると自動的に受信状態に戻るようにすることもできます。

詳しくは、59ページの“タイム・アウト・タイマー機能”をご覧ください。

長時間送信すると、本機の背面部分の温度はかなりの高温になります。ヤケドの原因になりますので、誤って手を触れないようご注意ください。

● 送信出力の設定方法

近距離と交信する場合などには、キースイッチの【LOW】キーを押し、送信出力を下げて運用してください。



【LOW】キーは押すたびに、送信出力が

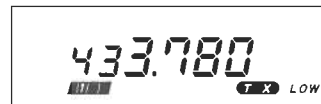
LOW → MID → HIGH → LOW → MID → HIGH

と切り換わりますので、右下の表を参考にして希望する送信出力に設定します。

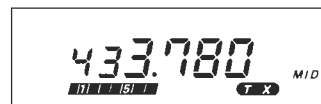
アドバイス

送信出力が“LOW”および“MID”に設定してあるときには、ディスプレイに“LOW”“MID”の表示が点灯します。

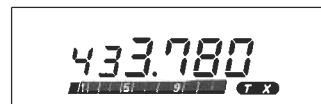
また、送信時に点灯するS&POメーターの指示は右に示すように、送信出力の違いにより点灯する位置が異なります。



送信出力がLOW



送信出力がMID



送信出力がHIGH

	HIGH	MID	LOW
FT-715H	35 W	20W	5W
FT-715M	25 W	10W	3W
FT-715	10 W	5W	1W

メモリー操作

本機には、運用周波数のほかにレピーター運用情報やトーンスケルチ運用情報なども同時に記憶（メモリー）することができる、独立した**53**チャンネル（チャンネル番号 **1**～**49**・**L1**・**U1**・**L2**・**U2**：合計**53**チャンネル）のメモリーチャンネルがあります。

● メモリーセット

◎ シンプレックス・メモリー操作

メモリーチャンネルに送受信周波数が同じ周波数をメモリーする操作です。

1. ダイアルモードにおいて、メモリーしたい周波数を設定します。
2. キースイッチの**F/W**キーを0.5秒以上押し続けるとディスプレイに点滅するメモリーチャンネル番号が現れます。
3. メモリーチャンネル番号が点滅している間（約5秒間）にダイヤルツマミまたはマイクロホンの**UP/DWN**キーを操作してメモリーしたいメモリーチャンネルの番号が点滅するようにします。
4. 再び**F/W**キーを押せば、シンプレックス・メモリー操作は完了します。



433.780MHzをメモリーチャンネル **17**にメモリーするとき。

周波数を**433.780MHz**に合わせる！

433.780



フロントパネルの**F/W**キーを0.5秒以上押す！

ダイヤルツマミまたはマイクの**UP/DWN**キーで点滅している番号を**17**に合わせる！

17
433.780

もう一度**F/W**キーを押す！

メモリーセット完了！

◎ セミデュプレックス・メモリー操作

受信周波数と送信周波数が異なる2つの周波数を、1つのメモリーチャンネルにメモリーする操作です。

1. まず初めに、前記で説明した“シンプレックス・メモリー操作”の方法で、メモリーしたいメモリーチャンネルに受信周波数をメモリーします。
2. 次に、ダイヤルツマミまたはマイクロホンのUP/DWNキーを操作して、送信周波数を設定します。
3. キースイッチのF/Wキーを0.5秒以上押し続けると、受信周波数をメモリーしたメモリーチャンネルの番号が点滅しますので、マイクロホンのPTTスイッチを押しながら再度F/Wキーを押します。
4. 以上でセミデュプレックス・メモリー操作は完了です。



受信は433.020MHz、送信は433.040MHzの2つの周波数をメモリーチャンネル7にメモリーするとき。

周波数を433.020MHzに合わせる！

433.020

フロントパネルのF/Wキーを0.5秒以上押す！

ダイヤルツマミまたはマイクのUP/DWNキーで点滅している番号を7に合わせる！

7
433.020

もう一度F/Wキーを押す！

周波数を433.040MHzに合わせる！

433.040

フロントパネルのF/Wキーを0.5秒以上押す！

点滅している番号は7のまま、PTTスイッチを押しながらフロントパネルのF/Wキーを押す！

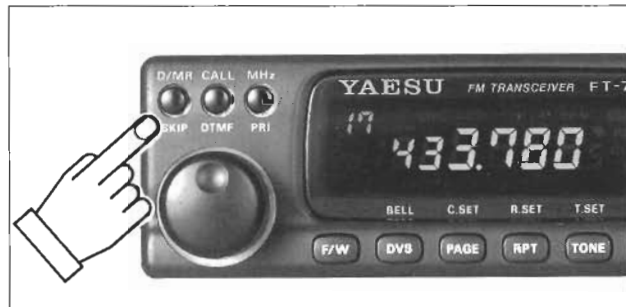
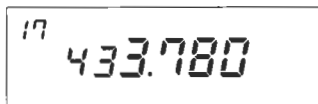
セミデュプレックス・メモリーセット完了！

● メモリーチャンネルの呼び出し操作

メモリーチャンネルにメモリーされているデータを呼び出して運用する方法です。

なお、メモリーチャンネルにメモリーされているデータで運用することを、“メモリーモード”と呼びます。

1. キースwitchの【D/MR】キーを押すと、ディスプレイにメモリーチャンネル番号が点灯し、メモリーチャンネルが呼び出されます。



2. ダイヤルツマミまたはマイクロホンのUP/DWNキーを操作すると、メモリーしてあるメモリーチャンネルのみが順番に呼び出されますので、希望するメモリーチャンネルを呼び出します。

アドバイス

セミデュプレックス・メモリーをしたメモリーチャンネルを呼び出すと、ディスプレイに“+”の表示が点灯します。

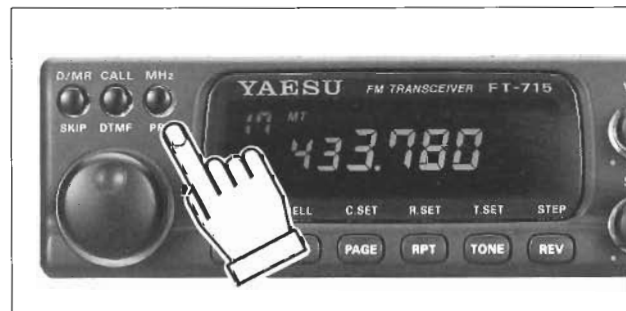
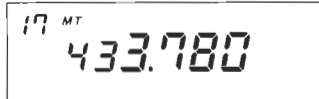
また、このときにキースwitchの**REV**キーを押すと、送受信周波数を一時的に反転することができます（リバース運用：リバース運用時には、ディスプレイの“-+”表示は点滅します）。再度**REV**キーを押せば、リバース運用は解除されます。

● メモリーモード時の付属機能

◎ メモリーチューン機能

メモリーチューン機能とは、メモリーチャンネルにメモリーされている運用周波数（セミデュプレックス・メモリー操作をしたメモリーチャンネルは受信周波数）を、一時的に可変することができる機能です。

1. メモリーモードで運用中にキースswitchの【MHz】キーを押すと、ディスプレイに“MT”の表示が点灯してメモリーチューン機能が動作します。



2. メモリーチューン機能が動作しているときには、ダイアルツマミまたはマイクロホンの**UP/DWN**キーで、メモリーチャンネルにメモリーされている運用周波数（セミデュプレックス・メモリーをしたメモリーチャンネルは受信周波数）を一時的に変更することができます。



メモリーチューン機能が動作しているときのステップ幅は、ダイアルモードのステップ幅になります。

3. キースwitchの**【D/MR】**キーを押すことによりメモリーチューン機能を解除することができます。

アドバイス

◎ メモリーモード時は、メモリーチューン機能と同様に、レピーター運用情報やトンスケルチ運用情報なども、一時的に変更することができます。

- ◎ メモリーチューン機能が動作中に**【F/W】**キーと**【MHz】**キーを続けて順に押すと、メモリーチューンの内容をダイアルモードへ転送することができます。

◎ メモリーチャンネルクリア操作

メモリーチャンネルクリア操作とは、メモリーチャンネルにメモリーした情報を、一時的に消去する機能です（ただし、メモリーチャンネル“1”を除く）。

1. メモリーモード時にキースwitchの**【F/W】**キーを0.5秒以上押し続けると、ディスプレイのメモリーチャンネル番号が点滅を始めます。
2. メモリーチャンネル番号が点滅している間（約5

秒間）に、ダイアルツマミまたは、マイクロホンの**UP/DWN**キーを操作して、消去したいメモリーチャンネルを呼び出します。

3. この状態でキースwitchの**【REV】**キーを押すと、メモリーチャンネルは一時的に消去されます。
4. メモリーチャンネルクリア操作を行ったメモリーチャンネルは、上記1.~3.の操作を繰り返すことにより、呼び戻すことができます。



メモリーチャンネル**17**にメモリーした情報を一時的に消去したいとき。

【D/MR】キーを押してメモリーモードにします。



フロントパネルの**【F/W】**キーを0.5秒以上押す！



ダイアルツマミまたはマイクロホンの**UP/DWN**キーで点滅している番号を**17**に合わせる！

17

433.780



フロントパネルの**【REV】**キーを押す！



メモリーチャンネルクリア操作完了！

● メモリーチャンネル運用の解除

キースswitchの**【D/MR】**キーを押すとダイアルモードに切り換わります。

コールチャンネル操作

本機には、書き換え可能なコールチャンネルがあります。

● コールチャンネルの呼び出し操作

キースイッチの【CALL】キーを押すと、ワンタッチでコールチャンネルが呼び出せます。

コールチャンネルを呼び出しているときにはディスプレイに、“**C**” の表示が点灯します（工場出荷時、コールチャンネルには、**433.000MHz**がプリセットしてあります）。

C
433.000

アドバイス

◎ コールチャンネルはメモリーチャンネルと同様に、運用周波数のほかにレピーター運用情報やトーンスケルチ運用情報なども同時に設定することができます。

また、これらの情報はコールチャンネル呼び出し中に、一時的に変更することができます。

◎ コールチャンネル呼び出し時に、ダイヤルツマミまたはマイクロホンの**UP/DWN**キーを操作すると、自動的にダイヤルモードに切り換わり、コールチャンネル周波数を中心に、運用周波数を変化させることができます。

● コールチャンネルセット

◎ シンプレックス・セット

コールチャンネルに送受信周波数が同じ周波数をセットするための操作です。

1. ダイヤルモードにおいて、希望のコールチャンネル周波数を設定します。
2. キースイッチの**F/W**キーを0.5秒以上押し続けるとディスプレイに点滅するメモリーチャンネル番号が現れますので、続けてキースイッチの【CALL】キーを押します。
3. 以上でコールチャンネルに、希望する周波数が設定されます。

◎ セミデュプレックス・セット

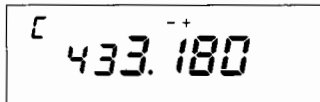
受信周波数と送信周波数が異なる2つ周波数を、1つのコールチャンネルにセットする操作です。

1. まず初めに、前記で説明した“シンプレックス・セット”の方法で、コールチャンネルに希望する受信周波数をセットします。
2. 次に、ダイヤルツマミまたはマイクロホンの**UP/DWN**キーを操作して、送信周波数を設定します。
3. キースイッチの**F/W**キーを0.5秒以上押し続けると再びメモリーチャンネルの番号がディスプレイに点滅しますので、**マイクロホンのPTTスイッチを押しながら再度【CALL】キーを押します。**

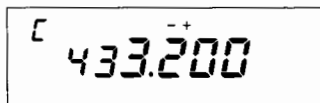
4. 以上でコールチャンネルに、受信周波数と送信周波数が異なる2つの周波数が同時に設定されます。

アドバイス

コールチャンネルにセミデュプレックス・セットを行った場合には、コールチャンネル呼び出し時に、ディスプレイに“**-+**”の表示が点灯します。



また、このときにキースイッチの**REV**キーを押せば、送受信周波数を一時的に反転することができます（リバース運用：リバース運用時には、ディスプレイの“**-+**”表示は点滅します）。



再度**REV**キーを押せば、リバース運用は解除されます。

● ワンタッチリコール （コールチャンネル運用の解除）

キースイッチの**【CALL】**キーを押すと、コールチャンネル運用に移る前に設定してあった状態（ダイヤルモードまたはメモリーモード）に戻ります。

スキャン操作

本機は、ダイヤル周波数とメモリーチャンネルを、下記に示す2種類のスキャンストップモードでスキャン操作が行えます。

スキャン操作とは、信号が入感する周波数またはメモリーチャンネルを自動的に捜し出す操作です。



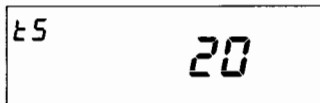
スキャン操作を行うときには、あらかじめ、無信号時にスケルチが閉じ、信号が入感したときにスケルチが開くようにSQLツマミを調節しておくとともに、下記の“スキャンストップモードの設定操作”を参考に、希望するスキャンストップモードに設定しておきます。（工場出荷時には、5秒スキャンに設定してあります）

● スキャンストップモードの設定操作

1. キースイッチの**F/W**キーと**REV**キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定してあるスキャンストップモードが表示されます。
2. この状態で**F/W**キーを押すと、スキャンストップモードが右のように変化しますので、希望するスキャンストップモードに設定します。

◎ **5秒スキャン**（ディスプレイに“**t5**”を表示）

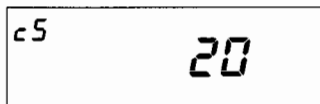
★連続スキャン中に信号が入感するとスキャンが約5秒間自動停止し、その後再びスキャンを開始します。



ただし、自動停止中でも、信号が無くなると約1秒後にスキャンを開始します。

◎ **ポーズスキャン**（ディスプレイに“**c5**”を表示）

★連続スキャン中に信号が入感するとスキャンが自動停止して信号が無くなるまでその周波数またはチャンネルを継続して受信し、信号が無くなると約1秒後にスキャンを開始します。



3. 設定終了後、再度**REV**キーを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、スキャンストップモードの設定操作は完了します。

● ダイアル周波数でのスキャン操作

ダイアルモードでスキャン操作を行う方法で、信号が入感する周波数を自動的に捜し出すことができます。

- ◎ ダイアルモードで運用中に、マイクロホンのUP/DWNキーを0.5秒以上押し続けると、自動的に運用周波数がそれぞれの方向へ変化し、順番にそれらの周波数をスキャンして行きます。

● メモリーチャンネルでのスキャン操作

メモリーチャンネルでスキャン操作を行う方法で、信号が入感するメモリーチャンネルを自動的に捜し出すことができます。

- ◎ メモリーモードで運用中に、マイクロホンのUP/DWNキーを0.5秒以上押し続けると、メモリーしてあるメモリーチャンネルだけを順番にスキャンして行きます。



メモリーチューン機能が動作しているときには、ダイアル周波数でのスキャン操作と同じように、現在運用している周波数を中心に、スキャンして行きます。

● 信号が入感すると

スキャン中に信号が入感するとスキャンが一時停止し、まえもって設定したスキャンストップモードの条件を満たすと、ふたたびスキャンを開始します。なお、スキャンが一時停止しているときには、周波数表示部のMHz桁のデシマルポイントが点滅します。



スキャンが一時停止しているときにマイクロホンのUP/DWNキーを0.5秒以上押すと、スキャンストップモードの条件を満たさなくても再びスキャンを開始します。

● スキャンの解除方法

ダイアル周波数および、メモリーチャンネルでのスキャン操作は、つぎの方法で解除できます。

- ★マイクロホンのPTTスイッチをワンタッチで押す。
(スキャン操作が解除されるだけで、送信状態にはなりません)。
- ★マイクロホンのUP/DWNキーをワンタッチで押す。
- ★ダイアルツマミを1クリックまわす。

- ★キースイッチの【D/MR】キーを押す(ダイアルモードでスキャンの場合はメモリーモードに、メモリーモードでスキャンの場合はダイアルモードに移行します)。
- ★キースイッチの【CALL】キーを押す(コールチャンネルに移行します)。

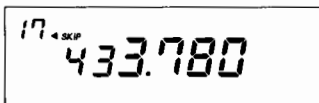
◎ メモリーチャンネルスキップ

指定したメモリーチャンネルをスキャン（受信）せずに、希望するメモリーチャンネルだけを順番にスキャンする方法です。



メモリーチャンネル 1 には、スキップの設定を行うことはできません。

1. 初めに、スキップさせたい（受信したくない）メモリーチャンネルを呼び出します。
2. ここでキースイッチの **[F/W]** キーと **[D/MR]** キーを続けて順に押すと、ディスプレイに “◀ SKIP” の表示が点灯してスキップセット操作が完了します。
3. 上記 1. と 2. の操作を繰り返し、スキップさせたいすべてのメモリーチャンネルにスキップセット操作を行います。
4. この状態でメモリーチャンネルスキップ操作を行う（マイクロホンの **UP/DWN** キーを 0.5 秒以上押す）と、スキップセット操作を行ったメモリーチャンネルはスキップして（受信せずに）、スキャン操作が始まります。
5. スキップセット操作を行ったメモリーチャンネルは、上記の 1. と 2. の操作を繰り返すことにより、スキップは解除されます（ディスプレイの “◀ SKIP” 表示が消灯します）。



◎ プログラマブルメモリースキャン（PMS）

プログラマブルメモリースキャン（PMS）とは、メモリーチャンネル “**L1**”（または “**L2**”）と “**U1**”（または “**U2**”）にメモリーした受信周波数の間をスキャンする操作で、特定の周波数範囲だけをスキャン操作することができます。

1. まず初めに、メモリーチャンネル “**L1**”（または “**L2**”）にスキャンの下限周波数、メモリーチャンネル “**U1**”（または “**U2**”）にスキャンの上限周波数をメモリーします。



◎ **必ず**メモリーチャンネル “**L1**”（または “**L2**”）にスキャンの下限周波数、メモリーチャンネル “**U1**”（または “**U2**”）にスキャンの上限周波数をメモリーしてください。

逆に設定した場合には、**PMS**は動作しません。

また、上限周波数と下限周波数の間は、**必ず100kHz以上あけるようにしてください。**

◎ メモリーチャンネル “**L1**”（ “**L2**” ）またはメモリーチャンネル “**U1**”（ “**U2**” ）のどちらかにメモリーチャンネルスキップ（左記参照）がセットしてあると、**PMS**は動作しません。

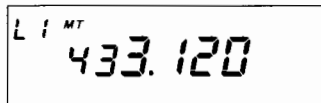
◎ **PMS**中は、10kHz以下の桁は0とみなします。

L1に433.120MHz、**U1**に433.780MHzがメモリーしてある場合は、

433.100MHz ←————→ **433.700MHz**

の間を、スキャンします。

2. メモリーチャンネルの“**L1**”または“**U1**”（あるいは“**L2**”または“**U2**”）チャンネルを呼び出し、キースイッチの【MHz】キーを押してPMSを動作させます。



3. この状態でマイクロホンのUP/DWNキーを0.5秒以上押し続けると、前ページ1.の項で設定した上限周波数と下限周波数の間を連続的にスキャンします。



PMSが動作しているときのステップ幅は、ダイヤルモードのステップ幅になります。

(**L1**・**U1**)(**L2**・**U2**)の両方に正しく周波数がメモリーされている場合は、

L1 → **U1** **L2** → **U2** または **U1** → **L1** **U2** → **L2**

の動作でスキャンします。(下図参照)

4. スキャン中に信号が入感するとスキャンが一時停止し、まえもって設定したスキャンストップモードの条件を満たすと、再びスキャンを開始します。

なお、スキャンが一時停止しているときには、周波数表示部のMHz桁のデシマルポイントが点滅します。

5. 一時停止しているPMSは、次の方法により完全に停止します。

★マイクロホンのPTTスイッチをワンタッチで押す（この場合はスキャンが停止するだけで、送信状態にはなりません。）

★マイクロホンのUP/DWNキーをワンタッチで押す。

★ダイヤルツマミを1クリックまわす。

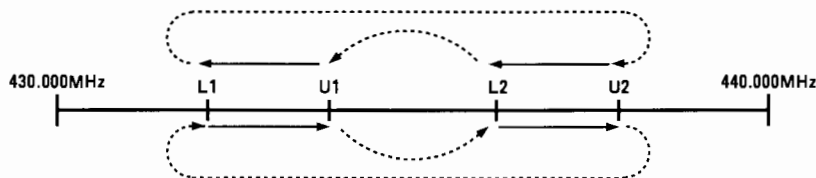


プログラプルメモリスキャン（PMS）が動作中は、ダイヤルツマミとマイクロホンのUP/DWNキーの周波数可変範囲も、上記1.の項で設定した上限周波数と下限周波数の間だけになります。

6. プログラプルメモリスキャン（PMS）は、つぎの方法により解除できます。

★キースイッチの【D/MR】キーを押す（メモリーモードに移行します）。

★キースイッチの【CALL】キーを押す（コールチャンネルに移行します）。



プライオリティ機能

プライオリティ機能とは、ダイヤルモードまたはメモリーモードで受信中に、5秒間に1回、指定したメモリーチャンネルを優先的に受信する“優先チャンネル監視機能”です。

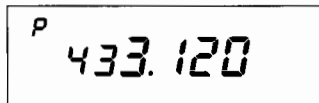


プライオリティ機能を動作させるときには、まえもって無信号時にスケルチが閉じ、信号が入感したときにスケルチが開くようにSQLツマミを調節しておきます。

● ダイヤルモードでのプライオリティ操作

ダイヤルモード時にプライオリティ機能を動作させて、ダイヤルで設定した周波数を受信しながら指定したメモリーチャンネルを約5秒間に1回、優先的に受信する操作です。

1. プライオリティしたいメモリーチャンネル（優先チャンネル）を呼び出します。
2. キースイッチの【D/MR】キーを押して、一度ダイヤルモードに戻します。
3. キースイッチの【F/W】キーと【MHz】キーを続けて順に押すと、ディスプレイに“P”の表示が点灯してプライオリティ機能が動作を始めます。



アドバイス

プライオリティ機能が動作中でも、送信はもちろんのことダイヤル周波数を変えることもできます。



ダイヤル周波数で送信中は優先チャンネルの受信はできません。

4. スキャンコントロール操作と同じように、優先チャンネルに信号が入感するとプライオリティ機能が一時停止して優先チャンネルを受信し、スキャンストップモードの条件（28ページ参照）を満たすと、再びプライオリティ機能が動作を始めます。

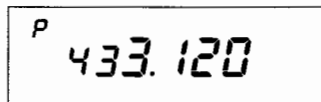
なお、優先チャンネル受信中は、“P”のかわりにメモリーチャンネル番号が点灯し、周波数表示部のMHz桁の小数点（デシマルポイント）が点滅します。

5. 優先チャンネルを受信しているときに送信すると、プライオリティ機能は自動的に解除されて、メモリーチャンネル（優先チャンネル）での送受信操作に切り換わります。

● メモリーモードでのプライオリティ操作

メモリーモード時にプライオリティ機能を動作させて、任意のメモリーチャンネルを受信しながらメモリーチャンネル“1”にメモリーした周波数を約5秒間に1回、優先的に受信する操作です。

1. メモリーチャンネル“1”にプライオリティ受信したい周波数をメモリーします。(22ページ参照)
2. キースイッチの【D/MR】キーを押して、メモリーモードにします。
3. キースイッチの【F/W】キーと【MHz】キーを続けて順に押すと、ディスプレイに“P”の表示が点灯してプライオリティ機能が動作を始めます。



アドバイス

プライオリティ機能が動作中でも、送信はもちろんのことメモリーチャンネルを変えることもできます。

ただし、メモリーチャンネルで送信中は優先チャンネルの受信はできません。

4. スキャンコントロール操作と同じように、優先チャンネルに信号が入感するとプライオリティ機能が一時停止して優先チャンネル（メモリーチャンネル“1”）を受信し、スキャンストップモードの条件（28ページ参照）を満たすと、再びプライオリティ機能が動作を始めます。

なお、プライオリティ機能が一時停止していると

きには、周波数表示部のMHz桁の小数点（デシマルポイント）が点滅します。

5. 優先チャンネル（メモリーチャンネル“1”）を受信しているときに送信すると、プライオリティ機能は自動的に解除されて、メモリーチャンネル“1”（優先チャンネル）での送受信操作に切り換わります。

● プライオリティ操作の解除

プライオリティ操作は、次の方法により解除できます。

- ★ キースイッチの【D/MR】キーを押す

◎ダイヤルモード周波数でプライオリティ操作をしているときは、ダイヤルモードに移行します。

◎メモリーチャンネルでプライオリティ操作をしているときは、メモリーモードに移行します。

- ★ キースイッチの【CALL】キーを押す

◎コールチャンネルに移行します。

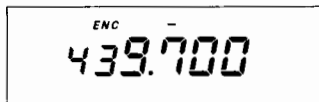
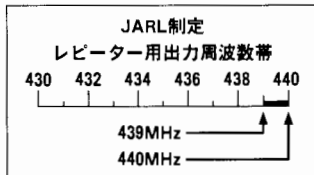
レピーター運用

本機はARS (Automatic Repeater Shift) 機能により、受信周波数をレピーター局の出力周波数に設定するだけで簡単にレピーター運用が行えます。

1. ダイアルツマミまたはマイクロホンのUP/DWN

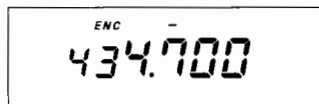
キーを操作して、受信周波数をレピーター局の出力(送信)周波数に設定します。

受信周波数がJARLが制定したレピーター用出力周波数帯の中に入ると、ディスプレイに“ENC”と“-”の表示が自動的に点灯してレピーター運用が行えます。



2. この状態で送信すると、88.5Hzのトーン信号を発生しながら受信周波数より5MHz低い周波数で送信状態になり、レピーターをアクセスできます。

3. レピーター局を経由して受信中にREVキーを押すと、ディスプレイの“-”の表示が点滅して送受信周波数が反転し、相手局がレピーターに向けて送信している周波数を受信することができますので、レピーターを経由せずに直接シンプレックス通信に移れるかの目安になります。



もう一度REVキーを押すと、元の周波数関係に戻ります。

4. 受信周波数をレピーター用出力周波数帯の外に設定すると、ディスプレイの“ENC”と“-”の表示が自動的に消えて、通常のシンプレックス運用に戻ります。

アドバイス

- レピーター運用中にメモリーセッ
ト操作(22ページ)を行うと、運用周波数とともにレピーター運用情報も同時にメモリーすることができます。
- レピーター運用情報は、コールチャンネルにも設定することができます。

送信オフセット運用

将来、シフト幅の異なるレピーターやJARLが制定した周波数帯以外の周波数にレピーターが開局したときには、送信オフセット運用によりレピーターをアクセスします。

送信オフセット運用とは、受信周波数に対して送信周波数を、あらかじめ決めておいた周波数（シフト幅）だけ希望する方向（シフト方向）にシフトさせて運用する方法です。

なお、送信オフセット運用を行うためには、38ページの“シフト幅の変更操作”により、あらかじめシフト幅を希望する値に設定しておきます。

アドバイス

本機は、送信バンド以外では送信することができないため、送信バンドに設定されていないバンドでは送信オフセット運用は行えませんが、運用状態（シフト方向）の設定は行うことができます。

1. まず初めに、受信周波数を設定します。
2. シフト方向は **RPT** キーを押すたびに右の動作を繰り返しますので、希望のシフト方向に設定します。

◎ マイナスシフト

★ディスプレイに“－”の表示が点灯し、受信周波数に対して送信周波数がシフト幅の値だけ低くなります。

433.780⁻

◎ プラスシフト

★ディスプレイの“－”表示が“＋”表示に変わり、受信周波数に対して送信周波数がシフト幅の値だけ高くなります。

433.780⁺

◎ シンプレックス

★ディスプレイの“＋”表示が消灯し、受信周波数と送信周波数が同一になります。

433.780

3. この状態で送信すると、上記2.の項で設定した周波数関係が成り立つ周波数で送信状態になり、送受信周波数が異なるシフト運用が行えます。

また、このときにキースイッチの **REV** キーを押せば、送受信周波数を一時的に反転することができます（リバース運用：リバース運用時には、ディスプレイの“－”または“＋”表示が点滅します）。

再度 **REV** キーを押せば、リバース運用は解除されます。

アドバイス

◎ ARS機能が動作しているときに
送信オフセット運用を行うと、自

動的にトーンエンコーダー回路も動作して88.5Hzの
トーン信号を発します。（ディスプレイに“ENC”
の表示が点灯します）

なお、88.5Hz以外のトーン周波数で運用するとき
には、次ページのトーンエンコーダー運用を併用して
トーン信号を発生させます。

- ◎ 送信オフセット運用中にメモリーセット操作（22
ページ参照）を行うと、運用周波数とともに送信オ
フセット運用情報も同時にメモリーすることができ
ます。
- ◎ 送信オフセット運用情報は、コールチャンネルに
も設定することができます。

シフト幅の変更操作

工場出荷時、送信オフセット機能のシフト幅（受信周波数と送信周波数の周波数差）は、**5MHz**に設定してありますが、下記の操作を行うことにより、任意の値（最小ステップ：**50kHz**）に変更することができます。

1. キースイッチの**F/W**キーと**RPT**キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定されているシフト幅を表示しますので、ダイヤルツマミまたはマイクホンの**UP/DWN**キーを操作して、希望のシフト幅を設定します。

R 5.000

2. 設定終了後、再度**RPT**キーを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、シフト幅の変更操作は完了します。

ARS機能のON/OFF操作

本機には、受信周波数が**JARL**の制定したレピーター用出力周波数帯の中に入っても、レピーター動作にならないよう、**ARS** (Automatic Repeater Shift) 機能を“OFF”にすることができます。

1. キースイッチの**F/W**キーと**RPT**キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定されている**ARS**機能の動作状態を表示します。

R 5.000

ARS機能 “ON”

5.000

ARS機能 “OFF”

2. **ARS**機能の動作状態は、**F/W**キーを押すたびに

“OFF” → “ON” → “OFF” → “ON” ……

の動作を繰り返しますので、希望する動作状態になるように設定します。

3. 設定終了後、再度**RPT**キーを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、シフト幅の変更操作は完了します。

トーンスケルチ運用

● トーンスケルチ運用



トーンスケルチ運用を行うには、オプションのFTS-27が必要です。

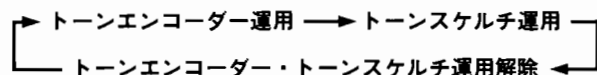
トーンスケルチ運用とは、特定局を対象に“待ち受け/呼び出し操作”が行える運用方法のことです。

なお、トーンスケルチ運用を行うためには、41ページの“トーン周波数の選択操作”により、あらかじめ自局と相手局とのトーン周波数を同じ周波数に設定しておきます。



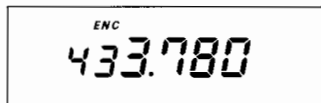
自局と相手局のトーン周波数が同じでないと、トーンスケルチ運用を行うことはできません。

運用状態は**TONE**キーを押すたびに次のように変化しますので、運用状態をトーンスケルチ運用に設定して交信を行います。



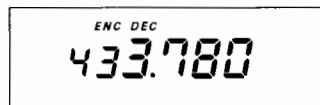
トーンエンコーダー運用

ディスプレイに“**ENC**”の表示が点灯し、送信時に音声信号とともに“トーン周波数の選択操作”で設定した周波数のトーン信号を連続して送信します。



トーンスケルチ運用

ディスプレイに“**ENC**”と“**DEC**”の表示が点灯し、送信時にはトーンエンコーダー運用時と同様に音声信号とともにトーン信号を連続して送信し、相手局のトーンスケルチ回路のスケルチを開けて相手局を呼び出すことができます（呼び出し操作）。



また、受信時には、設定したトーン周波数と同じ周波数のトーン信号を伴った信号を受信したときにのみトーンスケルチ回路のスケルチが開き、相手局の信号を受信することができます（待ち受け操作）。



なお、トーン周波数の異なる信号やトーン信号を含まない信号では、トーンスケルチ回路が開かず受信することができませんが、ディスプレイに**BUSY**の表示が点灯して信号が入感していることを知らせます。



トーンエンコーダー・トーンスケルチ運用解除
通常の運用に戻ります。

アドバイス

- ◎ トーンスケルチ運用中にメモリーセット操作（22ページ参照）を行うと、運用周波数とともにトーンスケルチ運用情報も、同時にメモリーすることができます。
- ◎ トーンスケルチ運用情報はコールチャンネルにも設定することができます（26ページ参照）。

ベル運用

● ベル運用



ベル運用を行うには、オプションのFTS-27が必要です。

ベル運用とは、特定局からの呼び出しを、呼び出し音とディスプレイの表示で知らせる運用方法のことです。

なお、ベル運用を行うためには、41ページの“トーン周波数の選択操作”により、あらかじめ自局と相手局とのトーン周波数を同じ周波数に設定しておきます。



自局と相手局のトーン周波数が同じでないと、ベル運用を行うことはできません。

キースイッチの**F/W**キーと**DVS**キーを続けて順に押すと、ディスプレイに“”の表示が点灯し、ベル運用になります。

433.780

ベル運用時には、設定したトーン周波数と同じ周波数のトーン信号を伴った信号を受信したときにのみ“”の表示が点灯から点滅に変わり、呼び出し音が鳴って呼び出しがあったことを知らせます。

なお、ディスプレイの“”表示は応答するまで点滅し続けますので、無線機から離れていた場合でも、呼び出しがあったことを知ることができます。



なお、トーン周波数の異なる信号やトーン信号を含まない信号ではトーンスケルチ回路は開かず、受信することはできませんが、ディスプレイに**BUSY**の表示が点灯して信号が入感していることを知らせます。



アドバイス

呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音は、52ページの“呼び出し音の種類の変更操作”を行うことにより呼び出し音の種類、53ページの“呼び出し音の鳴る回数変更操作”を行うことにより呼び出し音の鳴る回数を変更することができます。

また、54ページの“呼び出し音の動作変更操作”を行うことにより、呼び出しを受けてから応答するまで、約1分おきに呼び出し音が鳴るようにすることもできます。

● ベル運用の解除

キースイッチの**F/W**キーと**DVS**キーを続けて順に押すことにより、ベル機能を解除できます。

トーン周波数の選択操作

1. キーボードの **F/W** キーと **TONE** キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定してあるトーン周波数を表示しますので、ダイヤルツマミまたはマイクロホンの **UP/DWN** キーにより、希望するトーン周波数（下表参照）を呼び出します。

bP

88.5

2. 呼び出し終了後、再度 **TONE** キーを押すと、ディスプレイのトーン周波数表示が運用周波数表示に戻り、トーン周波数の選択操作は完了します。

FTS-27 トーン周波数表 (Hz)

67.0	88.5	114.8	151.4	203.5
69.3	91.5	118.8	156.7	210.7
71.9	94.8	123.0	162.2	218.1
74.4	97.4	127.3	167.9	225.7
77.0	100.0	131.8	173.8	233.6
79.7	103.5	136.5	179.9	241.8
82.5	107.2	141.3	186.2	250.3
85.4	110.9	146.2	192.8	—

ページャー運用

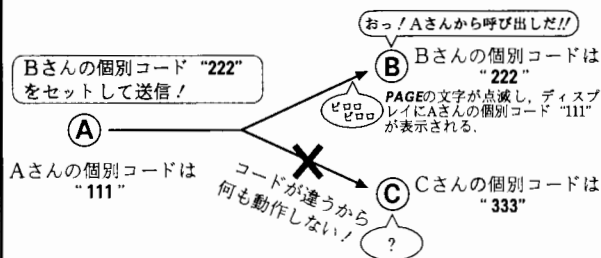
ページャー運用とは、トーンスケルチ運用と同じように、ある特定の局や特定したグループだけを対象に“待ち受け/呼び出し操作”が行える運用方法です。ただし、ページャー運用はトーンスケルチ運用に比べ、“ページャー呼び出し”や“コードスケルチ呼び出し”等の機能が追加されていますので、より高度な“待ち受け/呼び出し操作”が行えるようになります。

◎ 個別コード

個別コードとは、各局がそれぞれ個別に持っているその局専用のページャーコードのことで、このページャー（個別）コードを使用して呼び出し操作を行うと、その局だけを指定して呼び出すことができます（個別呼び出し操作）。



● AさんがBさんだけを呼び出したい時！



● ページャーコードの設定

ページャーコードとは、ページャー運用を行うために使用する制御コードのことで、“000”から“999”までの3桁の数字で表わされるDTMF信号の組み合わせにより構成されており、トーンスケルチ運用時のトーン信号と同じ役目を持っています。

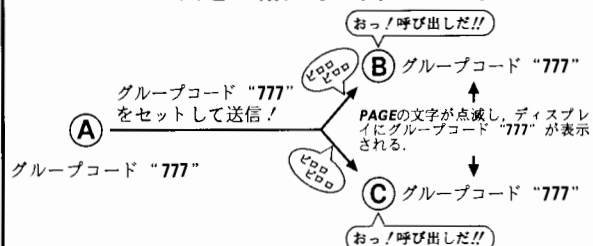
なお、このページャーコードには、個別コードとグループコードの2種類があり、下に示すような運用上の違いがあります。

◎ グループコード

グループコードとは、いくつかの局が集まって1つのグループとして運用しているときに、そのグループ全員に共通したページャーコードのことで、このグループコードを使用して呼び出し操作を行うと、そのグループに属している全ての局を一斉に呼び出すことができます（グループ呼び出し操作）。



● AさんがBさん、Cさんの2人を一緒に呼び出したい時！



また、このページャーコードには、8チャンネルの専用メモリーチャンネル“コードメモリー”があり、そのコードメモリーにあらかじめ取り決めたページャーコードをメモリーしておくことにより、能率良くページャー運用を行うことができます。

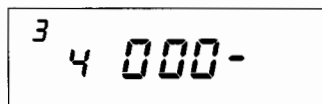
なお、コードメモリーの各チャンネルには次のようなルールがありますので、このルールに従って各コードメモリーにそれぞれのページャーコードを設定します。

コードメモリー番号	用 途	着呼禁止機能のON/OFF
0	相手局の個別コード用（受信専用）	切り換え不可（常時OFF）
1	自局の個別コード用（自分のコードを設定する）	コードセット後は切り換え不可
2	自局が属しているグループのグループコード用	切り換え可
3	その他のグループのグループコード用	切り換え可
4	その他のグループのグループコード用	切り換え可
5	その他のグループのグループコード用	切り換え可
6	その他のグループのグループコード用	切り換え可
7	その他のグループのグループコード用	切り換え可

1. キースイッチの**F/W**キーと**PAGE**キーを続けて順に押すと、下に示すような表示がディスプレイに現れ、ページャーコードの設定モードになります。

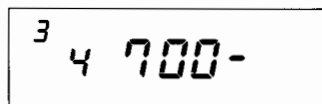


2. この状態でダイヤルツマミをまわすと、コードメモリーのチャンネル番号が変化しますので、設定しようとするコードメモリーのチャンネル番号が点滅するようにします。

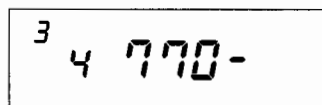


コードメモリー“0”には、ページャーコードの設定はできません。

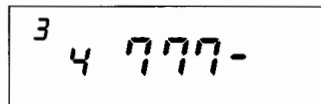
3. ここで、キースイッチの**【MHz】**キーを押すと、コードメモリーのチャンネル番号が点滅から点灯に変わるとともに、ページャーコードの先頭桁が点滅を始めますので、マイクの**UP/DWN**キーまたはダイヤルツマミをまわして、設定しようとするページャーコードの先頭桁の値（数字）を入力します。



4. もう一度キースイッチの**【MHz】**キーを押すと、ページャーコードの中間桁が点滅を始めますので、上記3.の操作と同じように設定しようとするページャーコードの2桁目の値（数字）を入力します。



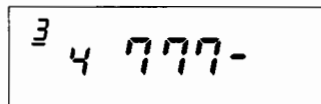
5. 上記4.の操作を繰り返して、ページャーコードの最終桁の値（数字）を入力します。



アドバイス

ここで、**F/W**キーを押すとディスプレイに“—”が点灯して、着呼禁止機能が解除されます。

詳しくは、50ページの着呼禁止機能をご覧ください。



6. 最終桁の設定が完了しましたら、キースイッチの**【MHz】**キーを押すと、再びコードメモリーのチャンネル番号が点滅するようになります。
7. 上記2.～5.の操作を繰り返すことにより、他のコードメモリーにもページャーコードを設定することができます。
8. コードメモリーにページャーコードが設定できましたら、もう一度**PAGE**キーを押します。
ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、ページャーコードの設定操作は完了します。

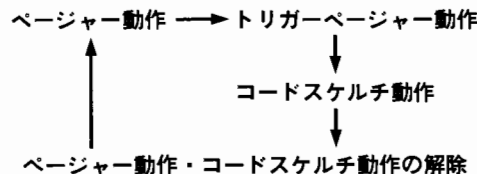
● 待ち受け操作

不要な通信を一切排除し、ある特定の局や特定したグループからの呼び出しを受けたときにのみ、相手局からの信号を受信することができる操作です。

なお、待ち受け操作には、特定局からの呼び出しを電子音で知ることのできる“ページャー動作”と、特定局からの呼び出しを受けたときにそのまま発信状態に移ることのできる“コードスケルチ動作”の2種類の待ち受け方法がありますので、下記の操作を参考に、どちらか希望する待ち受け方法に設定します。

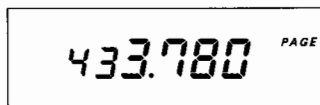
アドバイス

待ち受け方法は **PAGE** キーを押すごとに下記に示すように切り換わって行きますので、希望する待ち受け方法に設定します。



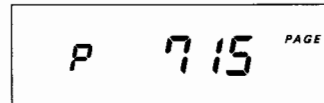
◎ ページャー動作

★ディスプレイに“PAGE”の表示が点灯し、あらかじめコードメモリーにメモリーしてあるページャーコードのいずれかと同じ組み合わせのページャーコードの信号を受信したときにのみ“PAGE”表示が点灯から点滅に変わって呼び出し音が鳴り、ディスプレイに次のい

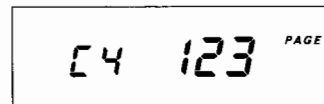


ずれかを表示し、“どの局から呼び出しを受けたのか?”を知ることができます。

- 個別呼び出し操作で呼び出しを受けたときには、“P”と相手局の個別コードを表示。



- グループ呼び出し操作で呼び出しを受けたときには、そのグループコードがメモリーしてあるコードチャンネルと“C”とそのときに使用したグループコードを表示。



なお、呼び出されたときに送信操作を行うと、相手局の個別コードと自局の個別コードを送信の初めに自動送出し、応答することができます。

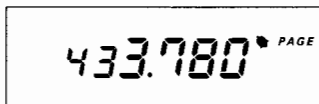
また、応答後相手局と発信する場合には、ページャー運用を解除してから行ってください。

アドバイス

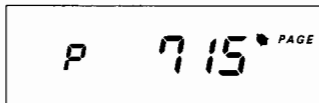
47ページの“ページャー自動応答機能の設定操作”を行うことにより、呼び出しを受けると自動的に、相手局に応答することができるようになります。

◎ トリガーページャー動作

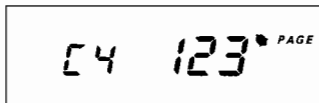
★ディスプレイ内に“PAGE”と“●”の表示が点灯し、あらかじめコードメモリーにメモリーしてあるページャーコードと同じ組合せのページャーコードを受信した場合のみ、“PAGE”の表示が点灯から点滅に変わって呼び出し音が鳴り、ディスプレイに次のいずれかを表示し、“どの局から呼び出しを受けたのか？”を知ることができます。



● 個別呼び出し操作で呼び出しを受けたときには、“P”と相手局の個別コードを表示。



● グループ呼び出し操作で呼び出しを受けたときには、そのグループコードがメモリーしてあるコードチャンネルと“C”とそのときに使用したグループコードを表示。

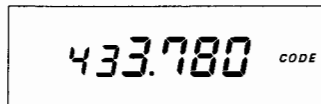


アドバイス

呼び出された時に直ちに（3秒以内）送信操作を行うと、相手局の個別（またはグループ）コードと自局の個別コードを送信の始めに送出して、そのまま相手局と交信することができます。また、一度相手局と交信状態になると、ページャーコードを送出しなくなりますので、静かな交信を行うことができます。

◎ コードスケルチ動作

★ディスプレイ内に“CODE”の表示が点灯し、あらかじめセットしたコードメモリーと同じ組み合わせのページャーコードを受信した場合にのみ、相手局の信号を受信することができます。



なお、呼び出されたときに送信操作を行うと、本機もコードメモリーにメモリーしてあるページャーコードを送信の初めに自動送出し、応答することができます。

◎ ページャー動作/コードスケルチ動作解除

★ページャー動作は解除され、通常の運用状態に戻ります。

アドバイス

ページャー動作時に、呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音は、52ページの“呼び出し音の種類の変更操作”を行うことにより呼び出し音の種類、53ページの“呼び出し音の鳴る回数の変更操作”を行うことにより呼び出し音の鳴る回数を変更することができます。

また、54ページの“呼び出し音の動作変更操作”を行うことにより、呼び出しを受けてから応答するまで、約1分おきに呼び出し音が鳴るようにすることもできます。

ページャー自動応答機能の設定操作

この操作は、ページャー動作時で待ち受け操作を行っているときの、応答方法を選択する操作です。

なお、ページャー自動応答機能には、“自動応答動作”と“自動転送動作”の2種類がありますので、下記に示す操作を行って、どちらか希望する応答方法に設定します。

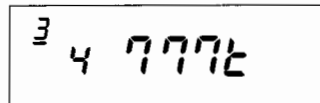
1. まず初めに、キースイッチの**F/W**キーと**PAGE**キーを続けて順に押し、ページャーコードの設定モードにします。
2. 応答方法は**【D/MR】**キーを押すたびに、右のように変化しますので、希望する応答方法に設定します。



ページャー自動応答機能を動作させるためには、上記の操作を行うほかに、まえもって無信号時にスケルチが閉じ、信号が入感したときにスケルチが開くようにSQLツマミを調節しておく必要があります。

◎ 自動転送動作

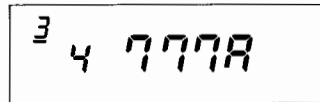
- ★ ディスプレイに“**t**”の表示が点灯し、応答方法が自動転送になります。



自動転送機能が動作しているときに呼び出しを受けると、相手局が送信したページャーコードを自動的にそのまま再送信し、アンテナゲインの稼げないハンディ・トランシーバーなどで待ち受け操作を行っている局にも、呼び出しがあったことを知らせることができます。

◎ 自動応答動作

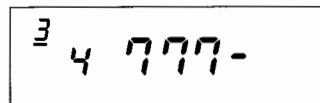
- ★ ディスプレイに“**R**”の表示が点灯し、応答方法が自動応答になります。



自動応答機能が動作しているときに呼び出しを受けると、相手局と自局の個別コードを自動的に送信し、応答することができます。

◎ 自動応答・自動転送ともに“OFF”

- ★ ディスプレイに“-”が表示される。



3. 設定終了後、再度**PAGE**キーを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、ページャー自動応答機能の設定操作は完了です。

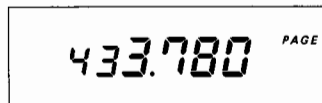
● 呼び出し操作

◎ ページャー呼び出し

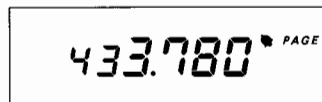
ページャー動作で待ち受けしている局を呼び出す操作です。

1. キースイッチの **PAGE** キーを押して、ページャー動作、またはトリガーページャー動作に設定します。

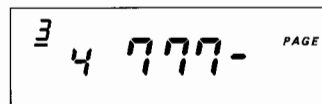
★ページャー動作（ディスプレイに“PAGE”の表示が点灯します。）



★トリガーページャー動作（ディスプレイに“PAGE”と“■”の表示が点灯します。）



2. キースイッチの **F/W** キーと **PAGE** キーを続けて順に押すと、右に示すような表示がディスプレイに現れますので



★ 個別呼び出しで呼び出すときには相手局の個別コード
★ グループ呼び出しで呼び出すときには相手局が属しているグループのグループコード

がメモリーしてあるコードメモリーに合わせます。

3. 再び **PAGE** キーを押して呼び出しの準備は完了です。
4. この状態で送信すると、ページャー動作で待ち受けしている局を呼び出すことができます。

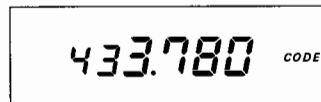
アドバイス

オプションのワイヤレスリモコンマイク“MW-2”またはDTMF機能付マイク“MH-26c8”を使用すれば、ページャーコードがコードメモリーに設定されていなくても、51ページの“マニュアル操作による呼び出し方法”により呼び出し操作を行うことができます。

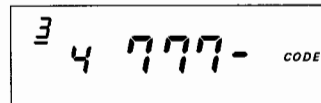
◎ コードスケルチ呼び出し

コードスケルチ動作で待ち受けしている局を呼び出す操作です。

1. キースイッチの **PAGE** キーを3回押して、コードスケルチ動作に設定します。（ディスプレイに“CODE”の表示が点灯します。）



2. キースイッチの **F/W** キーと **PAGE** キーを続けて順に押すと、右に示すような表示がディスプレイに現れますので相手と同じコードが設定されているコードメモリーに合わせます。

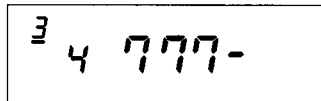


3. 再び **PAGE** キーを押して呼び出しの準備は完了です。
4. この状態で送信すると、コードスケルチ動作で待ち受けをしている局を呼び出すことができます。

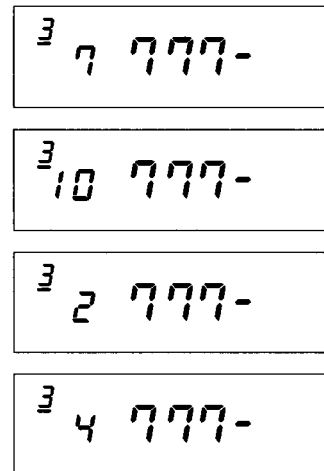
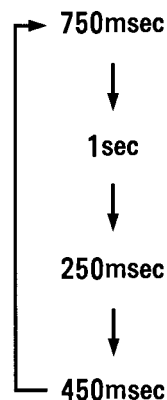
ページャーコード送信ディレータイムの設定

ページャー機能動作時に、送信の始めに自動送信されるページャーコードの送信タイミング（PTTスイッチ操作後、何秒でページャーコードを送出するか）を切り替えるものです。（工場出荷時には、送信ディレータイムは450msに設定してあります）

1. キースイッチの **F/W** キーと **PAGE** キーを続けて順に押すと、ディスプレイに下に示すような表示が現れ、**DTMF**コード送信ディレータイムの設定が行えるようになります。



2. ページャーコード送信ディレータイムは **RPT** キーを押すたびに、右の動作をくり返しますので、希望する値に設定します。

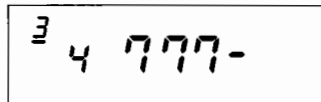


3. 再び **PAGE** キーを押せば、**DTMF**コード送信ディレータイムの設定は完了します。

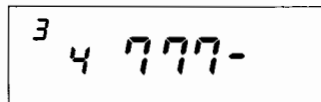
着呼禁止機能

着呼禁止機能とは、相手を呼び出すときに使う相手のコードや、前に使った他のグループコード等がメモリーされている場合、これらのコードでは呼び出されないようにする機能のことをいいます。

1. まず初めに、キースイッチの **F/W** キーと **PAGE** キーを続けて順に押してページャーコードの設定モードにします。
2. マイクロホンの **UP/DWN** キーまたはダイヤルツマミでコードメモリーの選択が行えますので、着呼禁止機能を動作させたいページャーコードが設定してあるコードメモリー



3. この状態で再度 **F/W** キーを押すと、ディスプレイ内の “—” 表示が消灯して、着呼禁止機能が動作します。



着呼禁止機能が動作しているコードメモリーのページャーコードで呼び出しを受けても、相手局の信号は受信できません。



コードスケルチ動作時には、着呼禁止機能の動作・解除にかかわらず、コードが一致すれば相手局の信号を受信することができます。

4. **F/W** キーは押すたびに、“—” の表示が消灯、点灯を繰り返し、着呼禁止機能が

動作 → 解除 → 動作 ……

を繰り返します。



コードメモリー 1 は、ページャーコードを書き込むと同時に着呼許可表示を行い、着呼禁止機能は動作しません。

マニュアル操作による呼び出し方法

オプションのワイヤレスリモコンマイク“MW-2”またはDTMF機能付マイク“MH-26cs”を使用すれば、ページャーコードがコードメモリーに設定されていなくても、マニュアル操作により呼び出すことができます。

ページャー運用時に、本機が送信の初めに自動送出するページャーコードは、

★ ページャー動作時には

○○○○*●●●

└── 自局の個別コード
└── DTMFコードの*
└── 相手局の個別コードまたは、グループコード

★ コードスケルチ動作時には

○○○○

└── 相手局がセットしているコード

の順で送出しますので、“MW-2”またはMH-26csのキーボードより、上記の順番でDTMFコードを送出すれば、相手局を呼び出すことができます。

アドバイス

ページャーコードの組み合わせは、本機のDTMFメモリーにメモリーして運用することもできます。詳しくは55ページの、“DTMFモード”をご覧ください。



相手局のページャーコードが123、自局の個別コードが567の場合

PTTスイッチを押しながらDTMF内蔵マイクのキーボードより、

1 → 2 → 3 → * → 5 → 6 → 7

とキー操作します。



キー操作を行なう時には、各キーを押す間隔を1秒以内で行ってください。

呼び出し音の変更操作

本機は、ベル運用・ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音を、次の3項目について変更することができます。

- ◎ 呼び出し音の種類の変更操作
- ◎ 呼び出し音の鳴る回数の変更操作
- ◎ 呼び出し音の動作変更操作

アドバイス

これらの変更操作は、ベル運用時とページャー運用時に対して、個別に異なるデータを設定することができます。

● 呼び出し音の種類の変更操作

この操作は、ベル運用・ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る、呼び出し音の種類を変更する操作です。

呼び出し音の種類は（ピープ音、ユーザー登録音）の2種類があり、どちらか1つを選んで設定することができます。（工場出荷時には、ピープ音に設定してあります）



ユーザー登録音を登録していない場合は、“呼び出し音の種類の変更操作”を行うことはできません（ユーザー登録の方法は、55ページ参照）

1. キースイッチの**F/W**キーを0.5秒以上押し続けた後に**PAGE**キーを押すと、右に示したような表示がディスプレイ

PR
5 5 bP

に現れ、**[D/MR]**キー操作で、ベル運用・ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る、呼び出し音の種類を変更することができます。

アドバイス

TONEキーを押すことにより、呼び出し音のモニターをすることができます。

2. まず初めに、キースイッチの**F/W**キーで、“ベル運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の種類を変更するのか？”または“ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の種類を変更するのか？”を指定します。

アドバイス

F/Wキーは押すたびに、ディスプレイのメモリーチャンネル表示部の表示が

“bE” → “PR” → “bE” → “PR” ……

と交互に変わり、“bE”の表示が点灯しているときには“ベル運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の種類”を、“PR”の表示が点灯しているときには“ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の種類”を変更できるようになります。

3. 呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の種類は**[D/MR]**キーを押すたびに

bP（ピープ音）→ U5（ユーザー登録音）……

と変化しますので、希望する呼び出し音に設定します。

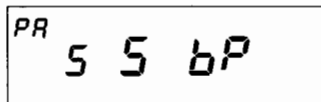
4. 設定終了後、再度**PAGE**キーを押すと、呼び出し音の種類の変更操作は完了します。

● 呼び出し音の鳴る回数の変更操作

この操作は、ベル運用・ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る、呼び出し音の鳴る回数を変更する操作です。

なお、呼び出し音の鳴る回数は（0・1・3・5・8回）までの5種類があり、その中から1つを選んで設定することができます。（工場出荷時には、呼び出し音の鳴る回数は“5回”に設定してあります。）

1. キースイッチの**F/W**キーを0.5秒以上押し続けた後に**PAGE**キーを押すと、下に示したような表示がディスプレイに現れ、ダイヤルツマミまたはマイクロホンの**UP/DWN**キー操作で、ベル運用・ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る、呼び出し音の回数を変更することができます。



2. まず初めに、キースイッチの**F/W**キーで、“ベル運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の鳴る回数を変更するのか？”または“ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の鳴る回数を変更するのか？”を指定します。

アドバイス **F/W**キーは押すたびに、ディスプレイのメモリーチャンネル表示部の表示が

“bE” → “PR” → “bE” → “PR” ……

と交互に変わり、“bE”の表示が点灯しているときに

は“ベル運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の回数”を、“PR”の表示が点灯しているときには“ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の回数”を変更できるようになります。

アドバイス

TONEキーを押すことにより、呼出音のモニターをすることができます。

3. この状態でダイヤルツマミまたはマイクロホンの**UP/DWN**キーを操作すると、呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の鳴る回数が次のように変化します。希望する回数に設定します。

＜左まわし（DWNキー） （UPキー）右まわし＞
 …… 0F …… 1 …… 3 …… 5 …… 8 ……

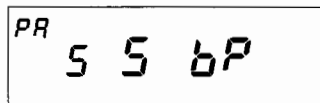
4. 設定終了後、再度**PAGE**キーを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、呼び出し音の鳴る回数の変更操作は完了します。

● 呼び出し音の動作変更操作

この操作は、ベル運用・ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る、呼び出し音の動作を変更する操作です。

本機は工場出荷時、ベル運用・ページャー運用時に呼び出しを受けると、呼び出しを受けたときにのみ呼び出し音が鳴って、その後は応答するまでディスプレイの表示が点滅するだけですが、この操作を行うことにより、呼び出しを受けると応答するまで1分おきに、呼び出し音が鳴るようにすることができます。

1. キースイッチの **F/W** キーを0.5秒以上押し続けた後に **PAGE** キーを押すと、下に示したような表示がディスプレイに現れ、**[MHz]** キー操作で、ベル運用・ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る、呼び出し音の動作を変更することができます。



2. まず初めに、キースイッチの **F/W** キーで、“ベル運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の動作を変更するのか？”または“ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の動作を変更するのか？”を指定します。

アドバイス

F/W キーは押すたびに、ディスプレイのメモリーチャンネル表示部の表示が

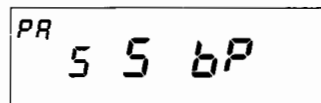
“bE” → “PR” → “bE” → “PR” …

と交互に変わり、“bE”の表示が点灯しているときには“ベル運用時に呼び出しを受けたときに鳴るの呼び出し音、の動作”を、“PR”の表示が点灯しているときには“ページャー運用時に呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の動作”を変更できるようになります。

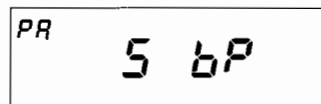
アドバイス

● TONE キーを押すことにより、呼出音のモニターをすることができます。

3. この状態でキースイッチの **[MHz]** キーを押すと、呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音の動作が **[MHz]** キーを押すたびに下記の動作をくり返しますので、どちらか希望する方の動作に設定します。



“呼び出されたときのみ呼び出し音が鳴る”



“1分おきに呼び出し音が鳴る”

4. 設定終了後、再度 **PAGE** キーを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、呼び出し音の動作変更操作は完了します。

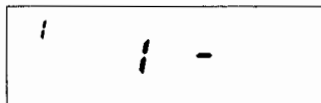
DTMFモード

本機には、ページャーコードなどのDTMFコードを最大15桁までメモリーすることのできる、10チャンネル（チャンネル番号“1”～“10”）また、ドレミ音をメモリーすることができる1チャンネル（チャンネル番号“US”）のメモリーチャンネルがあります。

● DTMFメモリーセット

DTMFメモリーチャンネルにDTMFコードをメモリーするための操作です。

- キースイッチの【F/W】キーと【CALL】キーを続けて順に押すと、ディスプレイのメモリーチャンネル部にDTMFメモリーチャンネル番号の表示が点滅します。

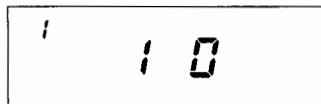


- ダイヤルツマミまたはマイクロホンのUP/DWNキーを操作して、メモリーしたいDTMFメモリーチャンネルのチャンネル番号を呼び出します。

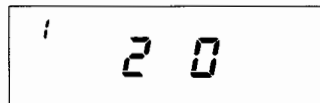


DTMFコードの“*”は“E”，“#”は“F”と表示されます。

- 【F/W】キーを押すと、DTMFメモリーチャンネル番号が点滅から点灯になるとともに、DTMFコードの先頭桁が点滅を始めますので、ダイヤルツマミを操作して、メモリーしたいDTMFコードの先頭桁を入力します。



- ここでキースイッチの【MHz】キーを押すと、点滅する桁が2桁目に移りますので、上記3.の操作と同じように、ダイヤルツマミを操作して、DTMFコードの2桁目を入力します。



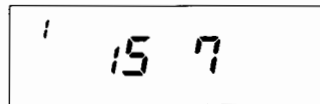
- 上記4.の操作を繰り返して、DTMFコードを入力してください。（最大15桁まで入力可能）

アドバイス

DTMFコードが点滅中【REV】キーを押せば、そのDTMFメモリーチャンネルにメモリーしてあったDTMFコードをクリア（消去）することができます。

- DTMFコードの入力が終わりましたら、最後に【F/W】キーを押します。

ディスプレイのDTMFメモリーチャンネル番号がふたたび点灯から点滅に変わり、メモリーが完了します。



アドバイス

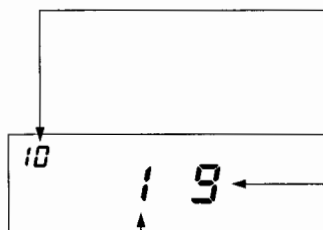
このとき【TONE】キーを押すことにより、メモリーしたDTMFをモニターすることができます。

- この状態でダイヤルツマミまたはマイクロホンのUP/DWNキーを操作すれば、他のDTMFメモリーチャンネルを呼び出せますので、上記3.～6.の操作を繰り返すことにより、他のDTMFメモリーチャンネルにもDTMFコードをメモリーすることができます。

8. もう一度【CALL】キーを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、DTMFメモリーセット操作は完了します。

アドバイス

DTMFメモリーチャンネルのチャンネル番号を設定すると、ディスプレイの表示が、下に示したような表示に変わります。



DTMFメモリーチャンネルのチャンネル番号（1～10, 15）

この場合は、DTMFメモリーチャンネル“10”

DTMFメモリーチャンネルの桁にメモリーされているDTMFコード（0～9, A, b, C, d, E, F）

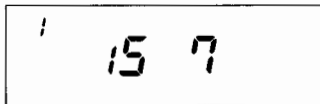
この場合は、DTMFコードの“9”

DTMFメモリーチャンネルの桁表示（1～15）

この場合は、DTMFメモリーチャンネルの先頭桁

DTMFメモリーの送出方法

1. キースイッチの**F/W**キーと**【CALL】**キーを続けて順に押すと、ディスプレイのメモリーチャンネル部に**DTMF**メモリーチャンネル番号の表示が点滅します。



2. ダイヤルツマミまたはマイクロホンの**UP/DWN**キーで希望する**DTMF**メモリーチャンネルを呼び出します。



ユーザーメロディーチャンネルを呼び出した場合は、**DTMF**を送出することはできません。メモリーされていないチャンネルを呼び出した場合は、**DTMF**の“D”を送出します。

3. 再び**【CALL】**キーを押して、通常の運用状態に戻します。
4. この状態で送信中にキースイッチの**【CALL】**キーを押すと、上記2.で呼び出した**DTMF**メモリーチャンネルにメモリーされている**DTMF**コードが送出されます。

アドバイス

DTMFコードの送出中は、PTTスイッチを離しても送信状態は保持されます。

ビープ機能

本機のキースイッチはキーロック時に、“ドレミ”の音程でビープ音を発します。

また、各種機能の動作・停止時にもビープ音を発しますので、音によるキー操作の確認が行えます。

なお、このビープ音は下記の操作を行うことにより、ビープ音の“ON/OFF”を行うことができます。

1. キースイッチの**F/W**キーと**TONE**キーを続けて順に押すと、下に示すような表示がディスプレイに現れ、ビープ音の“ON/OFF”を行うことができます。

bP 88.5

2. この状態で再度**F/W**キーを押すと、ディスプレイの“bP”表示が消灯・点灯を繰り返し、ビープ音の“ON/OFF”操作が行えます。

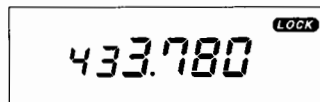
“OFF” (bP 消灯) ←→ “ON” (bP 点灯)

3. 設定終了後、再度**TONE**キーを押すと、ディスプレイの表示は運用周波数表示に戻り、ビープ音の“ON/OFF”操作は終了します。

ロック機能

本機は、不用意に運用周波数が変化したりしないように、パネル面の**POWER**スイッチ、**F/W**キー、および**【LOW】**キー以外のスイッチとダイヤルツマミの動作をロックする（受け付けなくする）ことができます。

1. キースイッチの**F/W**キーと**【LOW】**キーを続けて順に押すと、ディスプレイに**LOCK**の表示が点灯して、パネル面のキースイッチとダイヤルツマミの動作がロックされます。



2. もう一度**F/W**キーと**【LOW】**キーを続けて順に押すと、ディスプレイの**LOCK**表示が消灯して、ロックが解除されます（再び動作を受け付けるようになります）。

タイム・アウト・タイマー機能

◎ タイム・アウト・タイマー機能の設定操作

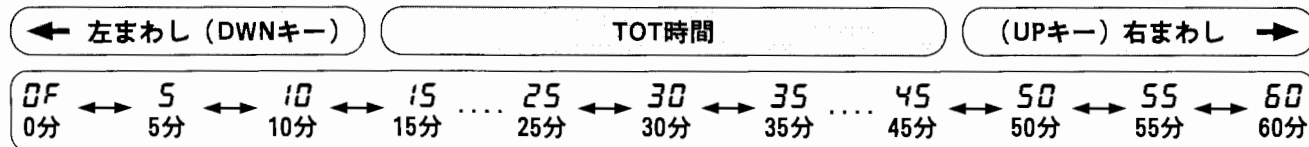
タイム・アウト・タイマー機能とは、あらかじめ決められた時間（TOT時間）まで連続送信を行うと、自動的に受信状態に戻り、不注意による連続送信のため、他局に混信を与えたり、セットの発熱等のトラブルを防ぐための機能です。（工場出荷時には、TOT時間は“15分”に設定してあります。）

1. キースイッチの **F/W** キーを0.5秒以上押し続けた後に **【MHz】** キーを押すと“TOTセットモード”になります。

tot 15

2. この状態でダイヤルツマミまたはマイクロホンの **UP/DWN** キーを操作すると、TOT時間が5分単位で下表のように変化しますので、希望する時間に設定します。

3. 設定終了後、再度 **【MHz】** キーを押すと、ディスプレイの表示がTOT機能設定モードにする前の表示に戻り、タイム・アウト・タイマー機能の設定操作は完了します。
4. タイム・アウト・タイマー機能が動作しているときには、上記2.の項で設定した時間（TOT時間）まで連続送信を行うと、**TX** インジケータが点滅し、警告のピープ音を発して強制的に受信状態に戻ります。
5. タイム・アウト・タイマー機能により強制的に受信状態に戻ったときには、PTTスイッチを押し直すことにより再び送信状態になります。



でんごんメモリー運用

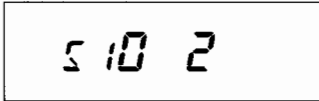
本機は、オプションのボイスメモリーユニット“DVS-3”を取り付けることにより、自分の音声やスピーカーからの受信音などを最長約2分間録音することができます。

また、リモート機能により、DTMF付トランシーバーを使用すれば、外部から録音したり、録音した内容をモニターしたりすることができます。

● 録音・再生の方法

★ 録音

1. キースイッチの**DVS**キーを押すと、ディスプレイに下に示すような表示が出てボイスメモリーユニットが動作します。



2. まず初めに、録音する時間に合わせてフレーズモードとビットレートを決めます。

フレーズモードとビットレートを組み合わせることにより、最短4秒の録音から最長約2分の録音まで、録音時間を自由に設定することができます。

ビットレート表示

1フレーズの録音時間表示

1

約4秒

2

約8秒

3

約12秒

4

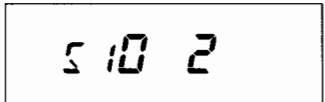
約16秒

◎ フレーズモード設定

ダイヤルツマミをまわすとディスプレイ内のフレーズモード表示が変化してフレーズモードを切り換えることができますので、右ページの表を参考に、希望する録音時間に最適なフレーズモードを選び出して設定します。

◎ ビットレートの設定

キースイッチの**REV**キーをワンタッチで押すとディスプレイ内のビットレート表示が点滅しますので、ダイヤルツマミにより希望するビットレートに設定します。



そして、再度**REV**キーを押すとビットレート表示が点滅から点灯に変わり、設定が完了します。

用語説明

★ フレーズモード

DVS-3は録音できる領域をフレーズ1からフレーズ8までの8区間に区切り、そのフレーズを右表に示す16種類の組み合わせ（フレーズモード）で使用する事ができます。

★ ビットレート

1フレーズに録音できる時間を決めるもので、ディスプレイ内に表示されるビットレート表示が大きいほど長く録音することができます。

ただし、ビデオの録画モードと同じように、録音時間が長くとれるビットレートほど音質は悪くなってしまう。

3. フレーズモードとビットレートの設定が終わりましたら、次に録音入力モードの設定を行います。

キースイッチの **●TONE** キーを押すごとに、ディスプレイ内の録音入力モード表示が

“M” → “S” → “M”

と交互に変化して録音入力モードが切り換わりますので、希望する録音入力モードに設定します。

M 10 2

“マイク入力”

S 10 2

“スピーカー入力”

フレーズ モード	動 作
0	フレーズ2からフレーズ8までに連続録音・再生
1	フレーズ1だけに録音・再生
2	フレーズ2だけに録音・再生
3	フレーズ3だけに録音・再生
4	フレーズ4だけに録音・再生
5	フレーズ5だけに録音・再生
6	フレーズ6だけに録音・再生
7	フレーズ7だけに録音・再生
8	フレーズ8だけに録音・再生
9	フレーズ1とフレーズ2に連続録音・再生
A	フレーズ3とフレーズ4に連続録音・再生
b	フレーズ5とフレーズ6に連続録音・再生
c	フレーズ7とフレーズ8に連続録音・再生
d	フレーズ2からフレーズ4までに連続録音・再生
E	フレーズ5からフレーズ8までに連続録音・再生
F	フレーズ2からフレーズ8まで1フレーズ単位で順番に録音・再生

4. マイクロホンの**UP**キーをワンタッチで押すと録音を開始します。

またこのとき、ディスプレイ内の**S/PO**メーター表示が録音時間の経過に比例して振れて行き、フルスケールになった時点で録音が終わりますので、録音時間の経過を知る目安になります。

5. 録音中にマイクロホンの**UP/DWN**キーまたはPTTスイッチのいずれかをワンタッチで押せば、録音を途中で中止することができます。



フレーズモード“**G**”やフレーズモード“**S**”～“**E**”などのように複数のフレーズを連続して録音する場合には、スタートフレーズに設定したビットレートですべてのフレーズを録音します。

6. 送信中でも録音することができます。

ただし、録音入力モードがスピーカー入力に設定してあっても送信中は自動的にマイク入力に切り換わり、マイクロホンからの音声入力の録音となります。

★ 再生

1. キースwitchの**DVS**キーを押してボイスメモリーユニットを“**ON**”にし、マイクロホンの**DWN**キーをワンタッチで押すと再生を始めます。

2. 再生するフレーズは録音時と同じように、ダイヤルツマミにより指定したフレーズモードの動作に従って再生します。

3. 送信中にマイクロホンの**DWN**キーを押せば、録音した内容を送信することもできます。（ボイスメモリーユニットが動作中に限る）

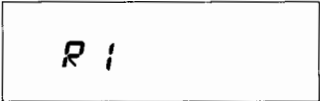


フレーズモード“**G**”やフレーズモード“**S**”～“**E**”などのように複数のフレーズを連続して再生する場合には、スタートフレーズに設定したビットレートですべてのフレーズを再生しますので、ビットレートを変えて個別に録音したフレーズを連続して再生すると、内容の確認ができないことがあります。

● リモート機能

本機のボイスメモリーユニット“DVS-3”は、DTMF信号により外部からメッセージを録音したり、録音したメッセージをモニターしたりする各種のリモートコントロールが行えます。

1. ボイスメモリーユニットが動作しているときにキースwitchの**RPT**キーを押すと、ディスプレイに下に示すような表示が出てリモート機能が動作します。



R 1

2. 外部からリモートコントロールすることのできる動作は次ページのコマンド表に示す11種類の動作で、これらはすべて表中のコマンド（暗証番号がセットしてあるときには暗証番号に続けて）をDTMF付トランシーバーから入力すれば動作します。

また、コマンドを受信すると自動的に、フレーズ1に録音したメッセージを（ID識別コード）として送信します。



フレーズチェック



（コマンド：#・0・0）

録音することのできる空フレーズがあるかをチェックします。

★ 暗証番号がセットされていないとき

DTMF付トランシーバーにより、コマンドを送信します。

→ 0 → 0

★ 暗証番号“0715”がセットしてあるとき

DTMF付トランシーバーにより、暗証番号に続けてコマンドを送信します。

0 → 7 → 1 → 5 → # → 0 → 0

録音することのできる空フレーズがあるときには、IDに続けて「9」「5」、ないときには「1」「5」とDTMF音でアンサーバックがあります。



連続録音



（コマンド：*・0・0）

フレーズ2からフレーズ8までを連続して録音します。

ただし、1つでも録音ロックがしてあるフレーズがあるとこのコマンドは受け付けません。

★ 暗証番号がセットされていないとき

DTMF付トランシーバーによりコマンドを送信し、一呼吸をおいてからメッセージを送話します。

* → 0 → 0 → こちらは……

↑
一呼吸あける

リモート運用時のコマンド表

コマンド名	コマンド	動作	アンサーバック (DTMF音)
リセット&ストップ	# # #	録音を途中でストップさせます。	——
フレーズチェック	# 0 0	空フレーズのチェック。	注1
連続録音	* 0 0	フレーズ2からフレーズ8までを連続録音します。	9
単位録音 (1フレーズ録音)	* 0 1	録音ロックされていないフレーズに、1フレーズ単位で録音します。	9
ビットレートセット	* 1 ★	ビットレートを★で指定した値にセットします。 ★：1～4（録音時のみ有効）	9
確認再生	# 0 1	最も新しく録音されたフレーズを再生します。	——
確定ロック	* 0 2	最も新しく録音されたフレーズを録音ロックします。	9 5
全フレーズ再生	# 1 0	再生ロックされていないフレーズをすべて再生します。 ※フレーズ1は除く	——
指定フレーズ再生	# 1 ★	★で指定したフレーズを再生します。 ★：1～8 (再生ロックしてあるフレーズは再生できません)	——
録音ロック解除	# 2 ★	★で指定したフレーズの録音ロックを解除します。 ★：1～8	9 5
録音ロック全解除	# 2 0	録音ロックされているすべてのフレーズの録音ロックを解除します。	9 5

注1：空フレーズあり → 9 5

空フレーズなし → 1 5

★ 暗証番号“1234”がセットしてあるとき

DTMF付トランシーバーにより暗証番号とコマンドを続けて送信し、一呼吸間をおいてからメッセージを送話します。

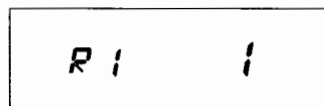
暗証番号

1 → 2 → 3 → 4 → * → 0 → 0 → こちらは……

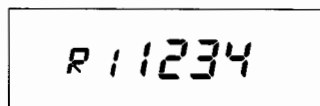
↑
一呼吸あける

メッセージの送話が終わって送信を止めるとIDに続けて「9」とDTMF音でアンサーバックがあります。

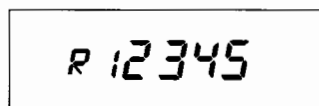
3. リモートコントロールを受けたFT-715/M/Hはディスプレイに下に示すような表示が出て、どのフレーズがコントロール（録音または再生）されたかを表示します。



1番目にコントロールされたフレーズ



4番目にコントロールされたフレーズ



5番目にコントロールされたフレーズ

● リモート運用時の2つの鍵

本機のボイスメモリーユニット“DVS-3”には、リモート運用中でもみだりに録音内容をモニターされたり破壊されたりしないよう、66ページに記した方法で、暗証番号と録音・再生ロックの2つの鍵をかけることができます。

● 暗証番号の設定

DVS-3の暗証番号は4桁の数字で構成される、“0001”から“9999”までの組み合わせの中から自由に選択・設定することができ、暗証番号の異なるコマンドや暗証番号の含まないコマンドでは、いかなるコマンドでも受け付けません。

1. ボイスメモリーユニットが動作しているときにキースイッチの**F/W**キーと**RPT**キーを続けて順に押すと、ディスプレイに右に示すような表示が出ます。
2. ダイアルツマミをまわして暗証番号の1桁目の数字を設定します。
3. マイクロホンの**UP**キーを押すと点滅する桁が右にシフトしますので、上記2.と同じようにダイアルツマミをまわして、暗証番号の2桁目の数字を設定します。
4. 上記3.の操作を繰り返し、4桁目まで暗証番号を入力します。

アドバイス

途中で入力を間違えた場合は、マイクロホンの**DWN**キーを押すことにより、点滅する桁が1つ前の桁に戻りますので、そこから設定し直すことができます。

5. もう一度**RPT**キーを押すとディスプレイの表示が元に戻り、暗証番号の設定が完了します。

0000

● 録音・再生ロックの設定

DVS-3の8つのフレーズの中で、リモートコントロールにより録音または再生されては困るフレーズだけ、コマンドを受け付けなくすることができます。

1. ボイスメモリーユニットが動作しているときにダイアルツマミをまわして録音または再生ロックをしたいフレーズを呼び出します。
2. この状態でキースイッチの**【MHz】**キーを押すごとに下記の動作を繰り返しますので、希望する状態に設定します。

◎ 録音・再生ロック

録音・再生ロックのかかったフレーズは、リモートコントロールによる録音と再生、さらにマイクロホンの**UP**キー操作で行うマニュアル録音が行えません。

5 10 L 2 L

◎ 録音ロック

録音ロックのかかったフレーズはリモートコントロールによる録音、さらにマイクロホンの**UP**キー操作で行うマニュアル録音が行えません。

5 10 2 L

◎ ロック解除

録音または再生ロックを解除します。

5 10 2

バックアップ機能

本機にはメモリーの内容や**POWER**スイッチを“OFF”にする前に設定してあった運用状態を記憶するバックアップ機能を備えています。

本機はバックアップ機能を動作させるために、バックアップ用電池を組み込んであります。

バックアップ用電池には高性能リチウム電池の採用により、電源コードを外した場合でもメモリー等CPUの内容を長期間記憶し続けることができます。

バックアップ用電池が消耗すると、メモリーの内容が消去されていたり、その他の設定が初期状態（工場出荷時の状態）に戻ったりしますので、メモリーの内容などはメモ等で保存しておくことをお勧めします。

なお、バックアップ機能が動作しなくなり、バックアップ電池（リチウム電池）の消耗とかわれましたら最寄りの当社営業所/サービスにご相談ください。有償で交換させていただきます。

リセットの方法

下記の操作を行うことにより、メモリーチャンネル内に書き込まれている全てのデータ、その他の設定を初期状態（工場出荷時の状態）に戻すことができます。

1. 一度電源を“OFF”にします。
2. 【D/MR】キーと**REV**キーを一緒に押しながら、電源を入れます。
3. 以上で、リセット操作は完了です。

メモリーオンリーモード

本機の動作をメモリーモードでのみ動作させる方法で、ディスプレイ表示を周波数表示ではなく、下に示すようにチャンネル表示で行います。

CH-01



◎ 【LOW】キー・【MHz】キー・メインダイヤル・マイクのUP/DWNキー・PTTキー以外の操作ができなくなります。

◎ コールチャンネルおよび、メモリーチャンネル L1・U1・L2・U2は無視されます。

● メモリーオンリーモードへの切り換え

1. 本機の電源を一度“OFF”にして、キースイッチのDVSとPAGEキーを押しながら再び電源を“ON”にするとメモリーオンリーモードに切り換わります。
2. チャンネルはメインダイヤル、または、マイクのUP/DWNキーで操作することができます。

● メモリーオンリーモードでのプライオリティ操作

【MHz】キーを押すことによりプライオリティ機能が動作します、プライオリティ動作中は、メモリーチャンネル表示部に“P”が表示します。

再び、【MHz】キーを押すことにより、プライオリティ機能を解除することができます。

P

CH-01

プライオリティ機能については、32ページの“プライオリティ機能”の項をご覧ください。

● メモリーオンリーモードの解除

本機の電源を一度“OFF”にして、キースイッチのDVSとPAGEキーを押しながら再び電源を“ON”にするとメモリーオンリーモードは解除され、メモリーモードに切り換わります。

なお、プライオリティ機能が動作中に、上記のメモリーオンリーモードの解除操作をおこなうと、メモリーモードでのプライオリティ機能に切り換わります。



メモリーオンリーモードでの、CATコントロールはできません。

CATコントロール

本機は、お手持ちのパーソナルコンピュータに合ったインターフェース（FIF-232C_{VAN}など）を用いてパネル面のマイクジャックにパーソナルコンピュータを接続すると、コンピュータより次ページのコマンド表に示した各種のコントロールが行えます。

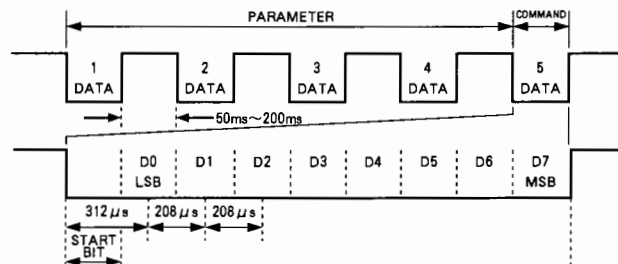
● 通信フォーマット

◎ 通信データの構成

通信データは右上の図に示すように、1組の通信データを5バイトで構成し、2つのバイト間のインターバルを50ms～200ms、スタートビットを1ビット、ストップビットを2ビット長とします。



パーソナルコンピュータによってBASICのスピードに差があり、1バイト出力後、次のバイトを出力する前にPRINTなどのダミー命令を実行して、インターバルをおくようにしてください。



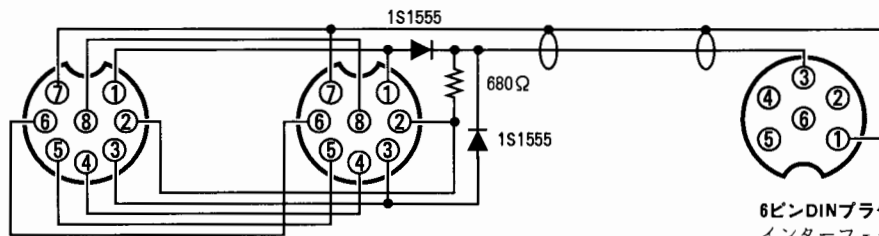
- ☆ 通信速度 4800ビット/秒
- ☆ スタートビット 1ビット
- ☆ ストップビット 2ビット
- ☆ パリティビット なし
- ☆ ワード長 8ビット
- ☆ データ間のインターバル 50～200ms

◎ CATシステムの使用例

外部コンピュータより制御する場合の例として、運用周波数とトーン周波数をセットしてみましょう。

1. 運用周波数セットのときは、1バイト目（DATA1）に100MHz台と10MHz台を2バイト目（DATA2）に、1MHz台と100kHz台、3バイト目（DATA3）に10kHz台と1kHz台を、4バイト目（DATA4）に100Hz台と0を、5バイト目（DATA5）にコマンド（01）を入力します。

接続例

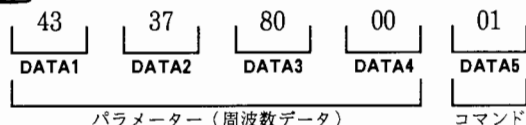


6ピンDINプラグ

インターフェースユニットに接続します



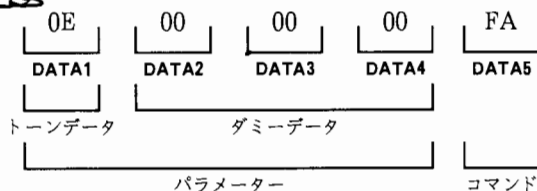
433.780MHzの周波数を入力する場合



2. トーン周波数セットのときには、1バイト目 (DATA1) にトーンデータ (下表参照)、2バイト目 (DATA2) から4バイト目 (DATA4) までにダミーデータ (たとえば00) を入力し、5バイト目 (DATA5) にコマンド (FA) を入力します。



88.5Hzのトーン周波数を入力する場合



トーンデータ

トーン周波数 (Hz)	トーンデータ	トーン周波数 (Hz)	トーンデータ	トーン周波数 (Hz)	トーンデータ
67.0	3F	103.5	1C	162.2	06
69.3	39	107.2	0C	167.9	15
71.9	1F	110.9	1B	173.8	05
74.4	3E	114.8	0B	179.9	14
77.0	0F	118.8	1A	186.2	04
79.7	3D	123.0	0A	192.8	13
82.5	1E	127.3	19	203.5	03
85.4	3C	131.8	09	210.7	12
88.5	0E	136.5	18	218.1	02
91.5	3B	141.3	08	225.7	11
94.8	1D	146.2	17	233.6	01
97.4	3A	151.4	07	241.8	10
100.0	0D	156.7	16	250.3	00

● その他の注意事項

- CATコントロール中は、VOLつまみ、SQLつまみ、PTTスイッチ、POWERスイッチ以外の操作ができません。
- 一般的にパーソナルコンピュータは雑音が発生する可能性があり、パーソナルコンピュータと本機を接続すると、この雑音により受信が妨害されることがあります。

このような場合には、フォトカプラやノイズフィルタなどを通して接続してください。

なお、“FIF-232CvAn” など当社のインターフェースユニットには、フォトカプラやノイズフィルタが内蔵してあります。

また、アンテナに直接混入する場合は、パーソナルコンピュータと本機をできるだけ離してお使いください。

- CATコントロールは、必ず**MW-2**のリモコンモードをOFFにしてから行ってください。

コマンド表

コマンド内容	DATA					コメ ン ト
	1	2	3	4	5	
CAT ON/OFF	00	00	00	00	★	★: F1=ON 80=OFF
運用周波数セット	①	②	③	④	01	①から④の順に周波数を入力します。 (例) 43,30,00,00=433.00000MHz
PTT ON/OFF	*	*	*	*	★	★: 08=ON 88=OFF
ENC, DECセット	*	*	*	*	★	★: 4A=ENC ON 0A=ENC, DEC ON 8A=OFF
トーン周波数セット	★	*	*	*	FA	★: トーンデータを参考にHEX コードで入力します。 (例) 0E=88.5Hz
パワーセット	*	*	*	*	★	★: 18=LOW 28=MID 48=HIGH

“DVS-3” の取付方法

● 何のオプションも取り付けていないとき

1. 第1図を参考に、本体側面のビス（左右2本ずつの合計4本）をゆるめ、さらに本体底面のビス4本を外して下ケースを取り外します。
2. 第2図の  で示した位置が **DVS-3** の取付位置です。
3. 第3図を参考にスピーカーホルダーを外し、下表と第4図を参考に **DVS-3** から出ている3本のコネクターを **FT-715/M/H** 本体のジャックに、3ピンコネクター → 8ピンコネクター → 7ピンコネクターの順でそれぞれ接続します。

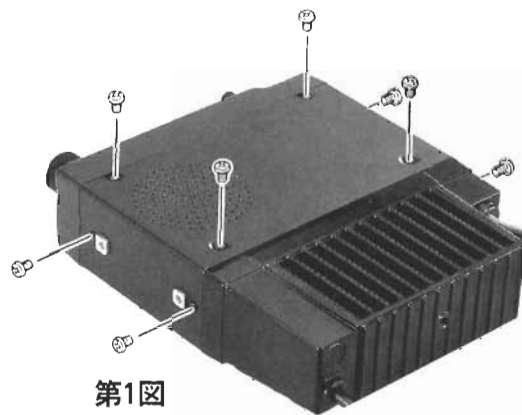
3ピン	7ピン	8ピン
J1004	J2005	J2003

4. 各コネクターの接続が終わりましたら第5図を参考に、付属のビス1本で、**DVS-3** を **FT-715/M/H** 本体に取り付けます。
5. 以上で **DVS-3** の取り付けは終了です。

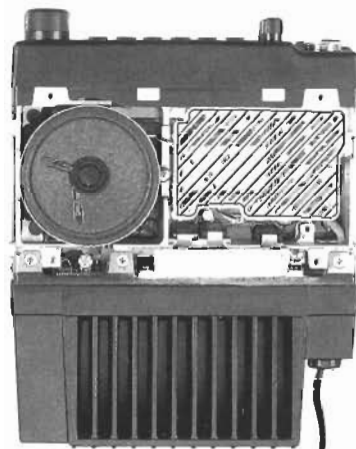
第5図に示す **BACK UP** スイッチを “ON” にしてバックアップ機能を動作させ、セット選択スイッチを図で示す方向（共に矢印の方向）にして、元通りにスピーカーホルダーと下ケースを取り付けます。



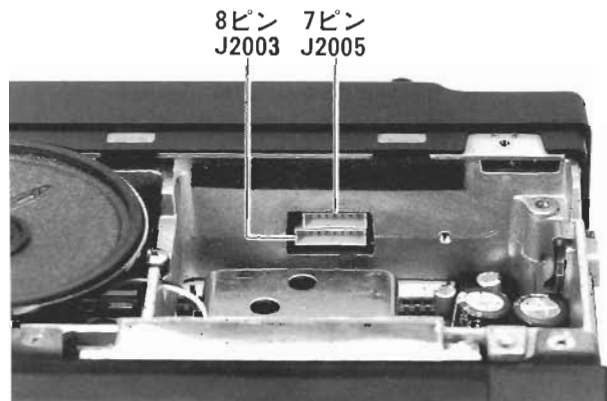
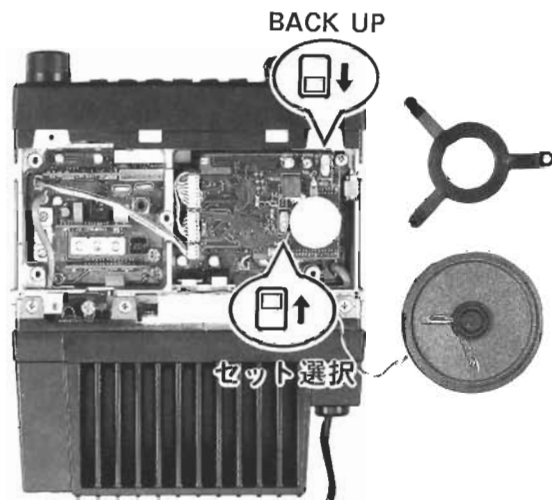
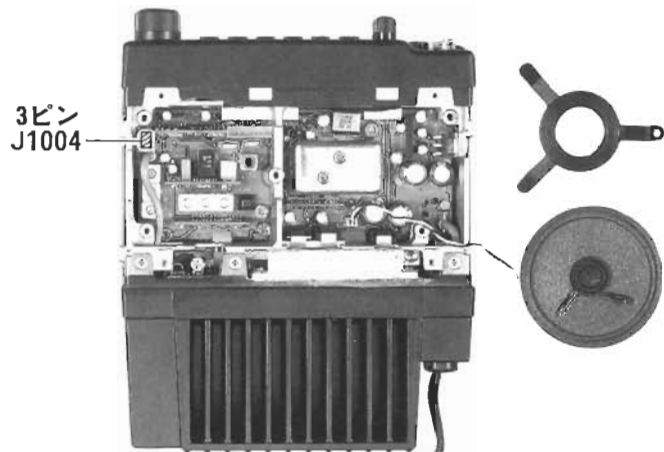
オプションの取り付けを当社営業所/サービスにご依頼になる場合には、所定の工賃を別途申し受けますのでご了承ください。



第1図



第2図



“DVS-3” の取付方法

● トーンスケルチユニット FTS-27がすでに取り付けてあるとき

1. 第6図を参考に、本体側面のビス（左右2本ずつの合計4本）をゆるめ、さらに本体底面のビス4本を外して下ケースを取り外します。
2. 第7図の  で示した位置が **DVS-3** の取付位置です。

まず始めに、すでに取り付けてあるトーンスケルチユニットを、ひとまず外しておきます。

3. 第8図を参考にスピーカーホルダーを外し、下表と第9図を参考に **DVS-3** から出ている3本のコネクターを **FT-715/M/H** 本体のジャックに、3ピンコネクター → 8ピンコネクター → 7ピンコネクターの順でそれぞれ接続します。

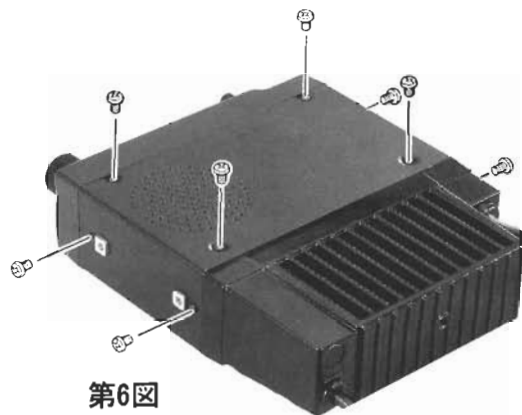
3ピン	7ピン	8ピン
J1004	J2005	J2003

4. 各コネクターの接続が終わりましたら第10図を参考に、付属のビス1本で、**DVS-3** を **FT-715/M/H** 本体に取り付け、トーンスケルチユニットを **DVS-3** の基板上に貼り付けます。（第10図参照）
5. 以上で **DVS-3** の取り付けは終了です。

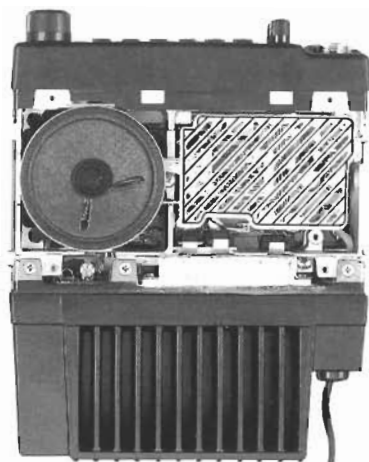
第10図に示す **BACK UP** スイッチを “ON” にしてバックアップ機能を動作させ、セット選択スイッチを図で示す方向（共に矢印の方向）にして、元通りにスピーカーホルダーと下ケースを取り付けます。



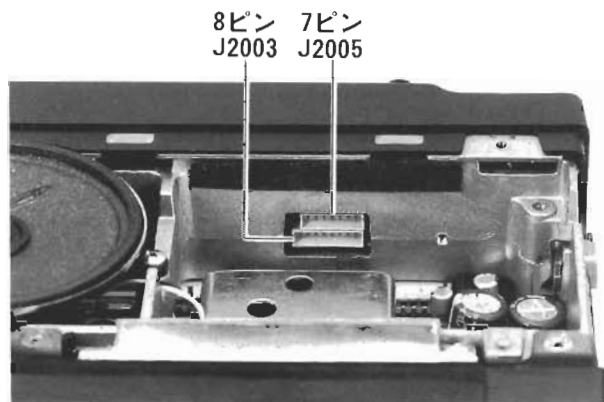
オプションの取り付けを当社営業所/サービスにご依頼になる場合には、所定の工賃を別途申し受けますのでご了承ください。



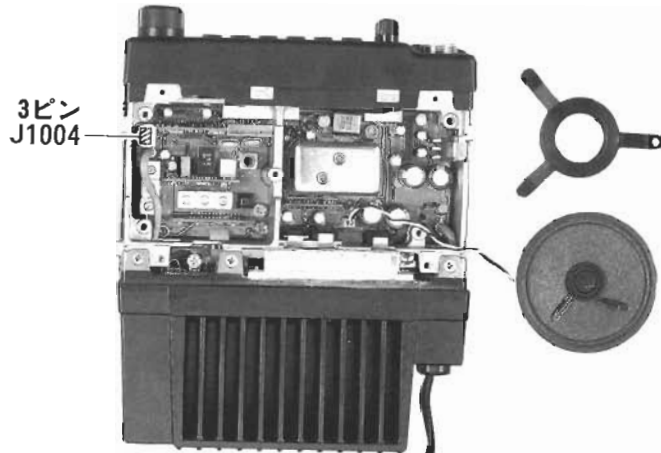
第6図



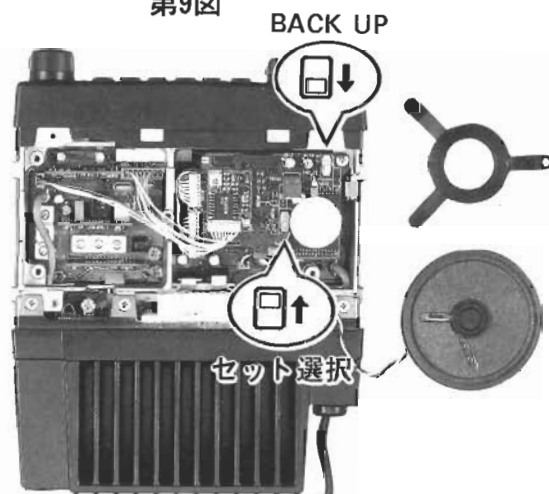
第7図



第9図



第8図



第10図

“FTS-27” の取付方法**● 何のオプションも取り付けていないとき**

1. 第11図を参考に、本体側面のビス（左右2本ずつの合計4本）をゆるめ、さらに本体底面のビス4本を外して下ケースを取り外します。
2. 第12図の  で示した位置がFTS-27の取付位置です。

まず始めに、第13図を参考にスピーカーホルダーを外し、FTS-27から出ている8ピンのコネクターをFT-715/M/H本体の8ピンジャックJ1003に接続します。

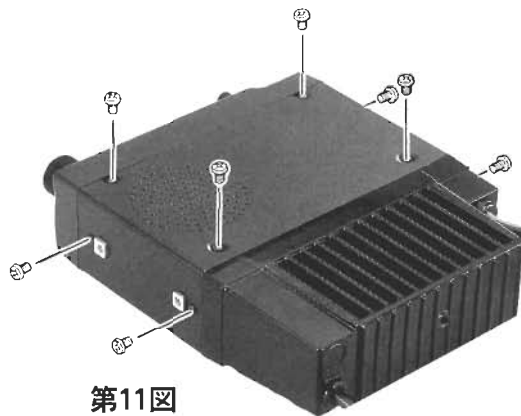
3. 次に、FTS-27に付属しているスポンジ付き両面テープを使用して、FTS-27をVCOケースの上面部に貼り付けます。（第14図参照）

4. 以上でFTS-27の取り付けは終了です。

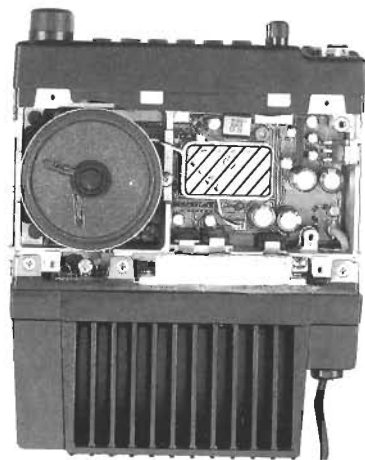
元通りにスピーカーホルダーと下ケースを取り付けてください。



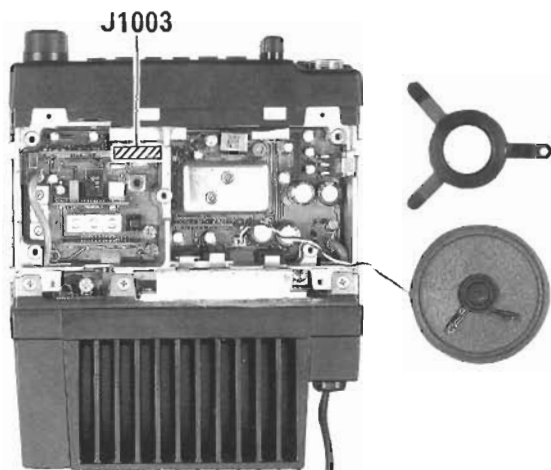
オプションの取り付けを当社営業所/サービスにご依頼になる場合には、所定の工賃を別途申し受けますのでご了承ください。



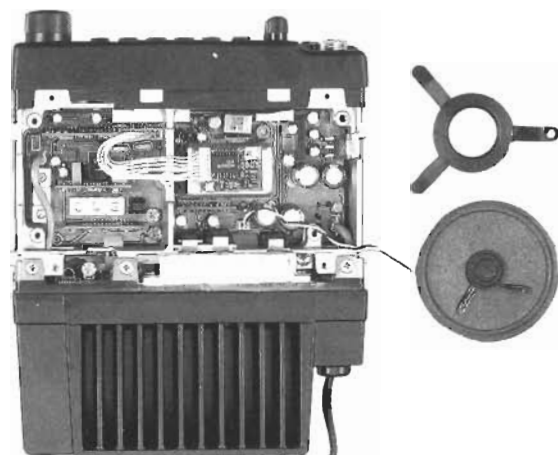
第11図



第12図



第13図



第14図

“FTS-27”の取付方法**● ボイスメモリーユニットDVS-3がすでに
取り付けてあるとき**

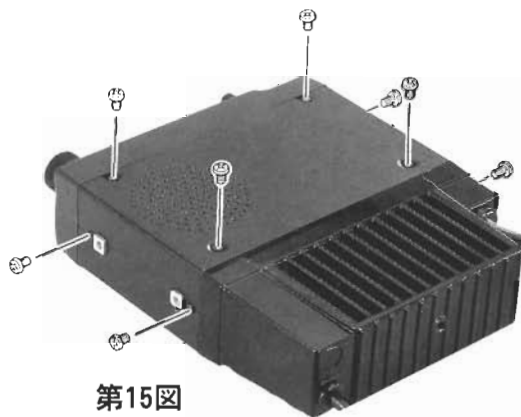
1. 第15図を参考に、本体側面のビス（左右2本ずつの合計4本）をゆるめ、さらに本体底面のビス4本を外して下ケースを取り外します。
2. 第16図の  で示した位置がFTS-27の取付位置です。

まず始めに、第17図を参考にスピーカーホルダーを外し、FTS-27から出ている8ピンのコネクターをFT-715/M/H本体の8ピンジャックJ1003に接続します。

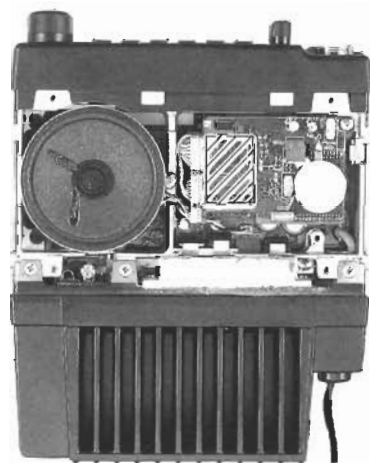
3. 次に、FTS-27に付属しているスポンジ付き両面テープを使用して、FTS-27をDVS-3の基板上に貼り付けます。（第18図参照）
4. 以上でFTS-27の取り付けは終了です。
元通りにスピーカーホルダーと下ケースを取り付けてください。



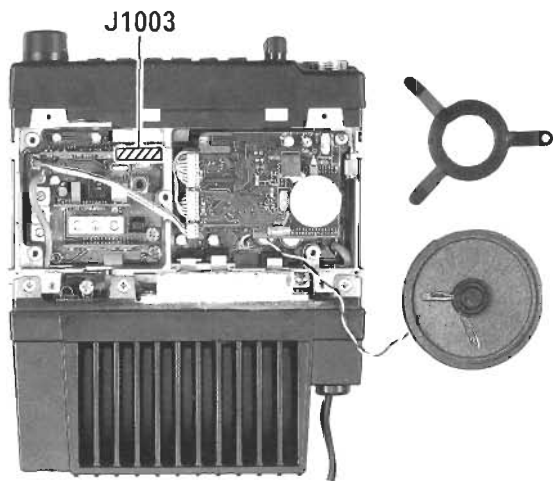
オプションの取り付けを当社営業所/サービスにご依頼になる場合には、所定の工賃を別途申し受けますのでご了承ください。



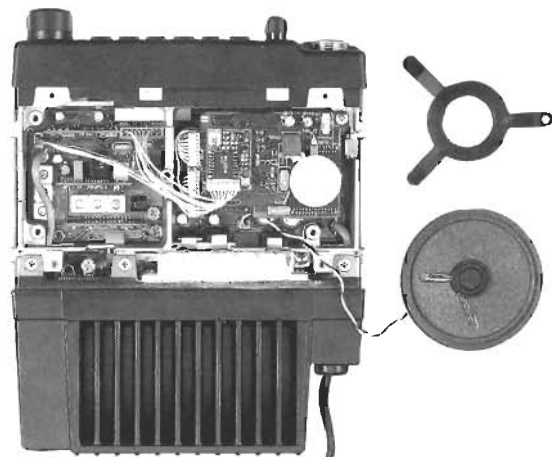
第15図



第16図



第17図



第18図

ワイヤレスリモコンマイクMW-2の使い方

本機をオプションのワイヤレスリモコンマイク“MW-2”でコントロールするときには、操作方法の一部が異なるとともに、新たな機能が追加されますので、下記の操作方法をよくお読みになって運用してください。なお、“MW-2”の取付方法や基本的な操作方法、使用上の注意事項などは、“MW-2”に付属している取扱説明書をご覧ください。

1. MW-2の **(RMC)** キーを押すと、本機のディスプレイに“REM”が点灯して、本機がリモコン状態になったことを示します。



リモコン機能が動作すると、本機は **POWER** キー以外の操作ができなくなります。

2. MW-2の各キーは右に示すキーを除き、全て本機のパネル面にある同じ表示のキースイッチと同様の動作をします。
3. さらに、MW-2を使用すると、81ページに示したように、“運用周波数の設定操作”と“メモリーチャンネルの呼び出し操作”をキー操作により直接行うことができます。

- ◎ **(▲VOL)** / **(VOL▼)** キー

(▲VOL) キーを押せば受信音量が大きくなり、反対に **(VOL▼)** キーを押せば受信音量が小さくなります。

- ◎ **(▲SQL)** / **(SQL▼)** キー

(▲SQL) キーを押せばスケルチの開くレベルが深く（弱い信号ではスケルチが開かなくなる）なり、反対に **(SQL▼)** キーを押せばスケルチの開くレベルが浅く（弱い信号でもスケルチが開くようになる）なります。

- ◎ **(ACC)** キー

本機の **(DVS)** キーと同様の働きをします。

★ 単独で押すと

でんごんメモリー運用が動作します。



でんごんメモリー運用を動作させるにはオプションの“DVS-3”が必要です。

★ **(F/W)** キーをワンタッチで押した後に続けて押すとベル機能をON/OFFすることができます。



ベル機能を動作させるにはオプションの“FTS-27”が必要です。

- ◎ **(USER)** キー

本機の **(D/MR)** キーと同様の働きをします。

- ◎ **(BAND)** キーおよび **(A/N)** キーは動作しません。



MW-2を使用する場合は、必ずCATコントロールをOFFにしてください。

● 運用周波数の設定方法

ダイヤルモードにおいて、運用したい周波数を1MHzの桁から1kHzの桁まで、“MW-2”の数字キーで順番に入力して行けば、希望する運用周波数をダイレクトに設定することができます。



運用周波数を433.780MHzに設定したいとき

(3) → (3) → (7) → (8) → (0)

アドバイス

途中で入力を間違った場合は、PTTをワンタッチで押すことにより、設定前の状態に戻すことができます。

また、433.000MHzの周波数のように、ある桁以下の周波数が“0”の時には、(F/W)を押すことにより、周波数の設定を省略することができます。



運用周波数を433.000MHzに設定したいとき

(3) → (3) → (F/W)

● メモリーチャンネルの呼び出し方法

ダイヤルモードにおいて、呼び出したいメモリーチャンネルの番号をMW-2の数字キーで設定し、続けてMW-2の(D/MR)キーを押せば、希望するメモリーチャンネルをダイレクトに呼び出すことができます。



メモリーチャンネル“17”を呼び出したいとき

(1) → (7) → (D/MR)

アドバイス

メモリーチャンネル“L1”“U1”“L2”“U2”は、それぞれメモリーチャンネル番号“50”“51”“52”“53”で呼び出すことができます。



メモリーしていないメモリーチャンネルを、呼び出すことはできません。

故障かな？と思ったら

間違った操作をしていませんか？

修理を依頼する前に、ちょっとお確かめください。

■ 電源が入らない

- ◎ 電源コードは正しく接続してありますか？
- ◎ ヒューズは切れていませんか？

■ 音がでない

- ◎ **POWER**スイッチは“**ON**”になっていますか？
- ◎ 音量調節器（**VOL**ツマミ）が反時計方向に絞りすぎていませんか？
- ◎ スケルチはオープンになっていますか？
スケルチコントロール（**SQL**ツマミ）を時計方向にまわしすぎていませんか、トーンスケルチ運用になっていませんか？
- ◎ 電源の接続は間違っていないですか？
- ◎ 電源の電圧は正常ですか？
- ◎ アンテナは確実に接続してありますか？
- ◎ 外部スピーカーの接続は間違っていないですか？

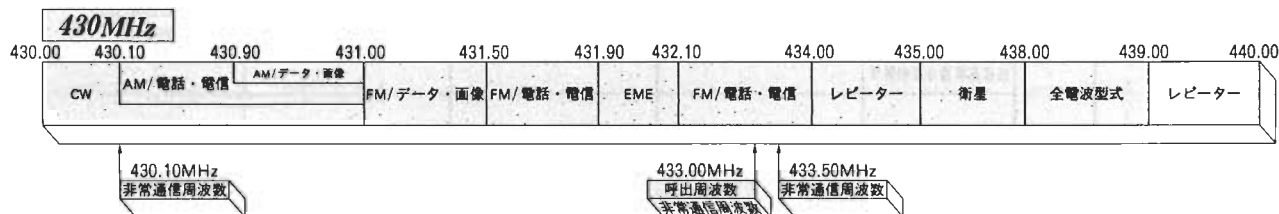
■ 電波がでない

- ◎ マイクロホンは確実に接続してありますか？
- ◎ マイクロホンのPTTスイッチは確実に押していますか？
- ◎ アンテナは確実に接続してありますか？
- ◎ アンテナの**SWR**は異常ありませんか？

◎ 電源の電圧は正常ですか？

◎ 送信オフセット運用などで送信時オフバンドになっていませんか？

平成4年5月14日付け郵政省告示第316号によってバンド内の使用区分が定められましたので、平成4年7月1日よりこのルールに従って430MHz帯を運用してください。
この告示の中で430MHz帯に関する部分を下記に示します。



詳細は、財団法人日本アマチュア無線振興協会（JARL）または社団法人日本アマチュア無線連盟（JARL）にお問い合わせください。

伝送情報及び用途等	アマチュア業務に使用する電波の型式
CW	A1
AM/電話・電信	A2(注1) A3 A3A・A3H・A3J(SSB) A9(注2)
AM/データ・画像	A2(注3) A4 A5J(注4) A9(FAX) A9C(FAX) F1(注3) F4(注5) F5(注6)
FM/電話・電信	F2(注1) F3
FM/データ・画像	F2(注3) F4(注7) F5(注8) F9(FAX)
衛星(注9)	A1 A3A・A3H・A3J(SSB) F1(注3) F2(注3)
EME(注10)	A1 A2(注1) A3 A3A・A3H・A3J(SSB)
レピータ(注11)	F2 F3 F4(注7) F5(注8) F9(FAX)
全電波型式(注12)	A1 A2 A3 A3A A3H A3J A4 A5 A5C A5J A9C F1 F2 F3 F4 F5 F9

- 注1：A2及びF2は、モールス無線電信による通信に使用する電波とする。
- 注2：A9は、抑圧搬送波両側波帯の無線電話の電波とする。
- 注3：A2、F1及びF2は、データ伝送（機械によって、処理される情報又は処理された情報）の伝送を行う電波とする。
- 注4：A5Jは、主搬送波を変調した副搬送波で振幅変調（抑圧搬送波単側波帯の場合に限る。）してテレビジョン伝送を行うF5に該当しない電波とする。ただし、占有周波数帯幅は、3kHz以下とする。
- 注5：F4は、主搬送波を周波数変調した副搬送波で振幅変調（抑圧搬送波単側波帯の場合に限る。）してファクシミリ伝送を行う電波で、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- 注6：F5は、主搬送波を周波数変調した副搬送波で振幅変調（抑圧搬送波単側波帯の場合に限る。）してテレビジョン伝送を行う電波で、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- 注7：F4は、主搬送波を直接に又は周波数変調した副搬送波で周波数変調してファクシミリ伝送を行う電波で、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- 注8：F5は、テレビジョン伝送を行う電波で、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- 注9：衛星は、衛星通信に使用する電波をいう。
- 注10：EMEは、月面反射通信に使用する電波をいう。
- 注11：レピータは、社団法人日本アマチュア無線連盟（JARL）のアマチュア業務の中継用無線局（レピータ局）との通信に使用する電波をいう。
- 注12：全電波型式は、各アマチュア局に指定されるすべての電波型式とする。

● FT-715で申請する場合

21 希望する周波数の範囲, 空中線電力, 電波の型式													
周波数帯		空中線電力		電波の型式			周波数帯		空中線電力		電波の型式		
430M		10		F3, F2									

22 工事設計		第1送信機		第2送信機		第3送信機		第4送信機	
変更の種別		取替 増設 撤去 変更		取替 増設 撤去 変更		取替 増設 撤去 変更		取替 増設 撤去	
技術基準適合証明番号									
発射可能な電波の型式, 周波数の範囲		F3, F2 430MHz帯							
変調の方式		リアクタンス変調							
定格出力		10W							
終 段 管	名称個数	M57704M×1							
	電 圧	13.7V							
送信空中線の型式						周波数測定装置		A 有 (誤差)	
その他の工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している				添付図面		☐ 送信機系統図	

アマチュア無線局免許申請書類の書き方

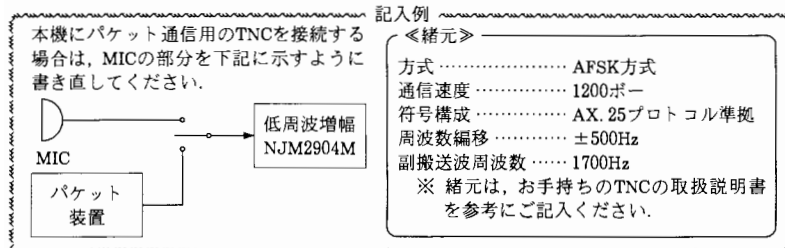
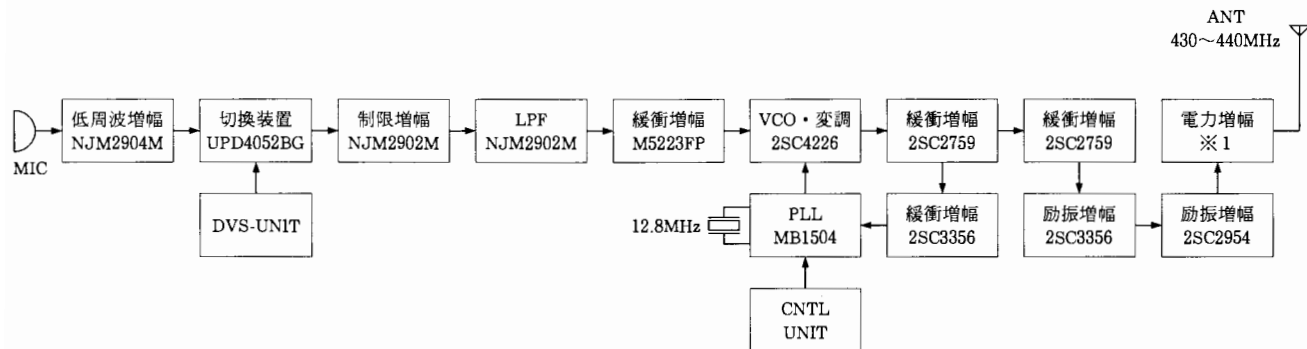
● FT-715Hで申請する場合

21 希望する周波数の範囲, 空中線電力, 電波の型式													
周波数帯		空中線電力		電波の型式			周波数帯		空中線電力		電波の型式		
430M		35		F3, F2, , ,							, , , , ,		
				, , , , ,							, , , , ,		
22 工事設計		第1送信機			第2送信機			第3送信機			第4送信		
変更の種別		取替 増設 撤去 変更			取替 増設 撤去 変更			取替 増設 撤去 変更			取替 増設 撤		
技術基準適合証明番号													
発射可能な電波の型式, 周波数の範囲		F3, F2 430MHz帯											
変調の方式		リアクタンス変調											
定格出力		35W											
終 段 管	名称個数	M57788M×1											
	電 圧	13.2V											
送信空中線の型式							周波数測定装置		A 有 (誤差)				
その他の工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している					添付図面		☐ 送信機系統図				

本機は、技術基準適合機ですので、『無線局事項書及び工事設計書』と『アマチュア局の無線設備の技術基準適合証明書発行願（開局の場合）』または『技術基準適合証明書発行願（変更“取替え及び増設”の場合）』に技術基準適合証明番号を記入することにより、『無線局事項書及び工事設計書の一部分』と『送信機系統図』の記入を省略することができます。

なお、技術基準適合証明番号は無線機ごとに異なり、本体底面に貼り付けてある技術基準適合証明シールに記載してあります。

また、保証認定で免許申請を行う場合には、『無線局事項書及び工事設計書』に前記の項目を記入してください。



※1		
FT-715の場合	FT-715Mの場合	FT-715Hの場合
電力増幅 M57704M	電力増幅 M57729	電力増幅 M57788M

あ

アンテナについて	8
アンテナの接続	12

い

1MHzステップ	17
----------------	----

う

運用周波数の設定	15
----------------	----

え

ARS機能のON/OFF操作	38
MW-2の操作方法	80

お

オプション	3
-------------	---

か

各キーの説明	5
外部スピーカーの接続	12

き

CATコントロール	70
-----------------	----

こ

コードスケルチ動作	46
コードスケルチ呼び出し操作	48
コードスケルチ呼び出し操作 (マニュアル)	51
コールチャンネルの呼び出し操作	26
コールチャンネルセット (シンプレックス)	26
コールチャンネルセット (セミデュプレックス)	26
故障かな?と思ったら	82
コールチャンネル運用の解除	27

し

シフト幅の変更操作	38
受信音の調節	14

す

スキャンストップモードの操作	28
スキャン操作	28
ステップ幅の変更操作	17

せ

設置場所について	10
----------------	----

そ

送信オフセット（プラスシフト）	36
送信オフセット（マイナスシフト）	36
送信出力の設定方法	21

た

タイムアウトタイマー機能	59
--------------	----

ち

着呼禁止機能	50
--------	----

て

定格	92
DTMFメモリーセット	55
DTMFメモリーの送出	57
でんごんメモリー運用	60
電源について	9
電源の入れかた/切りかた	14
電源の接続	12

と

トーンエンコーダー運用	39
トーン周波数の選択操作	41
トーンスケルチ運用	39
トーンスケルチ“FTS-27”の取付方法	76

は

背面の説明	6
パケット通信について	13
バックアップ機能	67
パネル面の説明	4

ひ

ビープ機能	57
-------	----

ふ

プライオリティ操作（ダイアルモード）	32
プライオリティ操作（メモリーモード）	33
プライオリティ操作の解除	33
プログラマブルメモリースキャン	30
付属品	3
付属マイクロホンの説明	7

へ

ページャーコードの設定	42
ページャーコード送信ディレイタイムの設定	49
ページャー自動転送機能	47
ページャー自動応答機能	47
ページャー動作	45
ページャー呼び出し操作	48
ページャー呼び出し操作 (マニュアル)	51
ベル運用	40
ベル運用の解除	40

ほ

ボイスメモリーユニット	
“DVS-3” の取付方法	72

め

メモリーオンリーモード	68
メモリーオンリーモードでの プライオリティ操作	68
メモリーセット (シンプレックス)	22
メモリーセット (セミデュプレックス)	23
メモリーチャンネル運用の解除	25
メモリーチャンネルクリア	25
メモリーチャンネルスキップ	30
メモリーチャンネルの呼び出し操作	24

メモリーチューン機能	24
免許申請書の書き方	84

も

モバイルブラケットの取付方法	11
----------------	----

よ

呼び出し音の回数変更操作	53
呼び出し音の動作変更操作	54
呼び出し音の変更操作	52
430MHz帯の使用区分について	83

り

リセットの方法	67
リモート機能	63

れ

レピーター運用	34
---------	----

ろ

録音・再生の方法	60
録音・再生ロック	66
ロック機能	58

共通定格

送受信周波数範囲: 430~440MHz

送受信周波数: 上記範囲内で

5/10/12.5/15/20/25/50kHzステップ

電波の型式: F3 (FM), F2

アンテナインピーダンス: 50Ω 不平衡 (M型接栓)

使用動作温度範囲: -20℃~+60℃

周波数偏差: ±10ppm以内 (-10℃~+50℃)

電源: DC13.8V±10% (マイナス接地)

動作可能範囲: DC12.0V~16.0V (マイナス接地)

消費電流: 受信無信号時 約450mA

(DC13.8V時) 受信定格出力時 約600mA

送信時

	FT-715H	FT-715M	FT-715
HIGH	約10A(35W)	約7A(25W)	約3A(10W)
MID	約7A(20W)	約4.5A(10W)	約2A(5W)
LOW	約3.5A(5W)	約2.5A(3W)	約1.5A(1W)

ケース寸法: FT-715H/M

140(143)W×40H×160(177)D (mm)

FT-715

140(143)W×40H×110(126)D (mm)

()内は突起物を含む最大寸法

重

量: FT-715H/M 約1250g

FT-715 約900g

送信部

送信出力: 送信出力 (DC13.8V時)

FT-715H

35/20/5W 切換可

FT-715M

25/10/3W 切換可

FT-715

10/5/1W 切換可

変調方式: リアクトンス変調

最大周波数編移: ±5kHz

占有周波数帯幅: 16kHz以内

スプリアス発射強度: -60dB以下

マイクロホンインピーダンス: 2kΩ (エレクトレットコンデンサー型)

受信部

受信方式: ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン

中間周波数: 45.1MHz/455kHz

受信感度: 0.18μV (-15dBμ)以下

@12dB SINAD

スケルチ開放感度: 0.158μV以下

イメージ比: 65dB以上

通過帯域幅: 12kHz以上/-6dB

選択度: 30kHz以下/-60dB

低周波出力: 1.5W以上

(8Ω THD5%, DC13.8V時)

低周波出力カインピーダンス: 4~16Ω (標準8Ω)

副次的に発する電波等の強度: 4000μW以下

* 定格値は常温・常圧時の値です

(測定法はJAIAで定めた測定法による)

このセットについて、または他の当社製品
についてのお問い合わせは、お近くの当社営業
所/サービス宛にお願い致します。

またその際には、必ずセットの製造番号
(本体背面に貼ってある銘板および保証書に記
入してあります)を併せてお知らせください。
なお、お手紙をいただくときには、お客様のご
住所、ご氏名は忘れずにお書きください。

八重洲無線株式会社

営業部 ☎146 東京都大田区下丸子1-20-2

札幌営業所/サービス ☎003 札幌市白石区菊水5条1-1-33 石川ビル ☎011 (823) 1161
仙台営業所/サービス ☎983 仙台市若林区大和町5-6-17 ☎022 (235) 5678
北関東営業所/サービス ☎332 埼玉県川口市弥平1-5-9 ☎048 (222) 0651
南関東営業所 ☎146 東京都大田区下丸子1-20-2 ☎03 (3271) 9181
名古屋営業所/サービス ☎457 名古屋市南区戸部町2-3-4 ☎052 (811) 4949
大阪営業所/サービス ☎542 大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル ☎06 (764) 4949
広島営業所/サービス ☎733 広島市西区己斐本町2-12-30 SKビル ☎082 (273) 2332
福岡営業所/サービス ☎812 福岡市博多区上牟田1-16-26 第2山本ビル ☎092 (482) 4082
サービスセンター ☎332 埼玉県川口市弥平1-5-9 ☎048 (222) 0651